

7

7

M.23.6.19  
~ 10.22

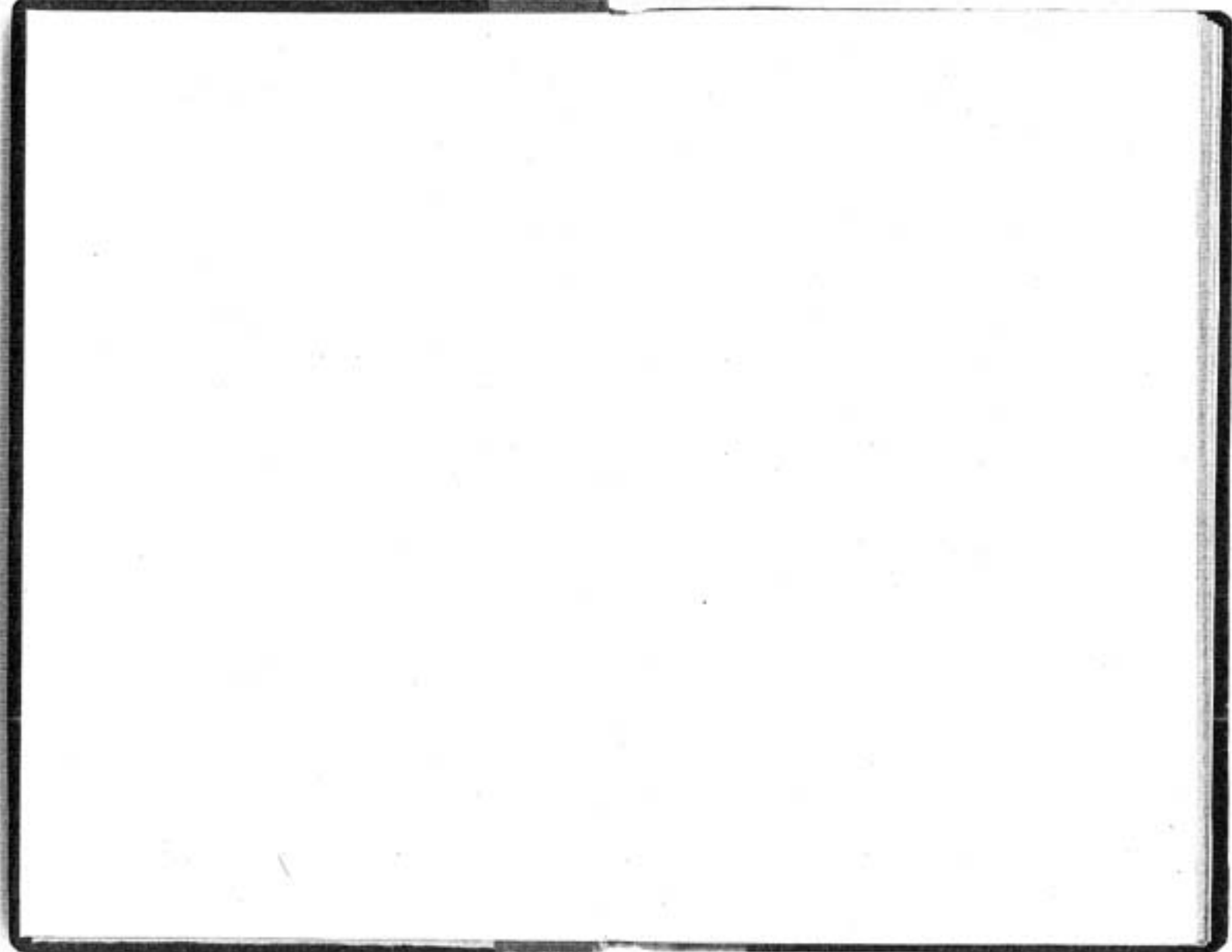
(23.24.日付ノミ)

うきよのたじ

二  
明治三十三年

自六月十九日  
至十月二十四日

第七



1906

1906

六月十九日(木)

今日ハ何時ニ起シテ不知多クハ何時  
頃ナルベシ。近頃ハ四時ハて日暮  
ナル。余ガ其月朝寝スルハ甚ク世間ニ對  
シテ又事ナシ。然レモ英雄ノ心中ハ  
常ニ縛ナリテ餘ヲ余アリ。ナレバ余ハ英  
雄ナルニテ矢張縛ナリテ餘ヲ余アリ  
ナリ。何トニライ者ガロー。(傍人アリ曰  
汝ハ自惚ヨリ成リ立ツモナリト。余亦  
先テ曰ク汝ハ卑屈ヨリ成リ立ツモナリト)。然  
レ今月ハ難強ノ厚弱ニ不足ク是ガ心  
恐レ余ハ夢中ニテ矢張ノ原野ヲ草シ  
始メ日暮ニ至ル頃三四葉ヲ草シ終ル  
克シヨリ兄ト共ニ教場ニ出カ余ハ芝ヲ  
採原野、渡田侯然ク同ク以テ倒  
ノビニ心ヲ至リテシカ、飲態ヲ克  
クシテ余、ビニ心ヲ毎晩召シ上ガルハ  
打邊人ヲ気取リタル迄ニテ別に悪意  
アル非ス小遣錢、ユルス限リハ充  
分ニ飲ム外續クナシ。ヨシユカズハ借金  
ニテモ飲ムナリ。ビニ心ヲ飲マズレバ英  
雄ナラズ。英雄ハ必ズビニ心ヲ女子

ト、此頃ハ伊東管轄トスツ大學者が吐キ  
タル噂言ハシ金着ル由歐洲各國、新  
聞ニ見ヘリ。此ノ日ビニハ店ニ來集スル學  
生數層數百名。ソレハウソダロー。當  
リ前サ數十名ト云フゾ。ソレデモ多過ギル  
様ダ。ナニ數名ト云ツタ積ツダガソノ數  
名ハ皆十餘ノ朋友ヲ互ニ往事ヲ語リテ  
樂シム内。店ノ女房ハ傍ヨリ色々ニ復  
想ヲ言ヒシガ 彼ハ (英語、直訳デハ彼女、)  
駒去ト云フ浪華節ノ大丈夫ヲ平ヲ妬ノクハ未  
…… 彼ハ其言復働作真ニツノ人、眞快ヲ  
寫シ能アツ。醉案ヲ撰スルバ其言句一々  
醉案セ……ト云ヒテ終ラザルニ店ノ亭主ハ  
女房ヲソツト睨ミ手ヲ延シ袖ヲ引キ忍  
ビ声ニテハコレ女房！此客ノ手前ガアルゾハ  
ナカト云フ女房ハヌカラヌ顔ニテ言ヒテ後  
轉ジタルガ實ハ彼ノ女ハ大ニ面白キニシツ。  
余ハコンナ小サイ事マデモ注意シテ見ヘリ。  
中々面白イダロー？ 寧ろケリアホシク  
ほラセラツケ原籍ヲ調査シテ一ツノ處ニ  
就テ判決ニ十三点ツ。

九月二十日 (金)

午前五時半に目覚めセリ、ソレハ余ノ経  
典ノ場合ナリト矢張り。然レ目ヲ  
開キテモテ起キ出ヅル迄ハ重クダ  
シク九時半至テ五時ヨリ迄  
休息スルハ早クモ日暮ニナリテ夕食ノ時  
多クナル。余ハ丈ヨリ原稿ヲ読ムル  
ガ余ノ英雄ヲスラ今世ハ中ニ共ニシ  
リソノ筆ヲ余ハ方ツケ書キ、新体詩ノ  
如クモ、三回枚草シカバ。右終リテ  
其レ心ノ底ニ至クニ人ニテ大ニ本  
ヲ化スルヲ通例トセルガ今日ハ本デハ少  
シニ至リカ見ヘス。見ハ、此レ店ニ入リテ又  
シテヤラント云フ。余ハ全ク之ニ不同意ニ家  
ニリテ、其レ判決ニ一点今日ハ  
何モ英雄ノ事ハセナカ。

九月二十一日(土)

七時起き八時登校十二時ありて  
夜してまへ二十三日ノカキ下式履、  
準備トツカへコソ殊勝ナル。日  
暮小堀千次郎先生来りテ余ト共ニカ  
キヲ研究ス一時寫ノ後彼レヨハ朝  
ヲ家ニカ来りテ即チ兄弟三人ニテ此レハ  
店ヘトツカ込ニ大ビレニ本ヲ化履ノコガ全  
クカカレ余ハ知法ヲ好ゲレテコソ  
ア多ク食ラス見ハキル様子飲レテ企  
デンテ主張セシガ終ニ用ナルズテ家ニ  
帰リ兄弟ノ熱心嘗レテ曼トソ  
食バレテ主張シテモス種ニ余モ賛成  
シタリ。兄弟三人客員ノ合ニ大アツクオチ  
曼ヲ包食ス折レテ眞水英丈押シ  
寄テ来リテカキヲ研究ス研究イコ  
深クテ祝ト共ニ酣ナリ。折カラ園ニハ  
遠寺ノ鐘。響ルハ十二時ナリ。眞水ハ  
慌テ、歸リ余ハ静カニ寝レテ。彼レハ  
慌テ余ハ平氣也。主客ノ勢、何ソ相異  
ナル甚レテヤ判決三十六点ナリ



七月二十一日 (日)

明日ハカ等トテ世ニモ恐ロシキ日ナリ (カノモ  
 系トソテツ余早朝ト宅内ヲ汚ヒテ其ニカ等  
 研究シテ一ツ知在キ後ハ一心ニカ等ヲ  
 シラベ日暮ヨリ真水英史ヲ汚ヒテ再ヒカ  
 等ヲ研究シリヨ宅内ヲ見レバ家才来リテ  
 居リ即チ其ニヒールヲ飲ミ鯉食ヲ食  
 フコト明日ヲ試験ト云フ余ハ一切忘レ  
 タルカ如キ觀念アルナリ然リ余ハ動カスレバ  
 酒肉ノ為ニ字ヲ忘ルコトアリ復ニ枕アリ  
 松ガ余ノ英雄不疾漢ノコトヲ知ル  
 右ノ分推送ノ事務ニ大ニ時ヲ費シ  
 ナリ昨夜ニ付テ判決三十大点ナリ

ハ  
 五  
 二  
 一十

六月二十三日 (月)

午、早朝起キテ、幸温、イツカル、今日、午後八  
時のカ、考、試験アルヲ、ヒテ、ツ、余、ハ、居、可  
ノ、年、思、ヒ、ラ、居、テ、試験、場、理、=、赴、キ、十一、時  
マ、デ、限、アル、月、出、ヲ、ホ、リ、テ、大、ハ、赤、房、セ、リ、今日、  
成、績、ハ、餘、リ、宜、シ、カ、ラ、ズ、併、シ、七十、点、ノ、價、直  
ハ、ア、リ、ト、思、ハ、ル、試験、ノ、際、本、郷、春、本、町、コ、リ  
出、大、シ、カ、ル、ガ、東、北、ノ、風、向、ノ、ア、強、ク、即、面  
カ、リ、湯、島、マ、デ、顔、焼、レ、シ、戸、外、凡、ク、九、百、三、十、五  
午、坊、二、時、事、鐘、大、セ、カ、コ、レ、コ、リ、近、頃、大  
火、ナ、リ、ナ、リ。午、後、ヨ、リ、知、電、新、田、長、谷、部、  
両、氏、ヲ、訪、ヒ、次、ニ、塩、水、ヲ、訪、ヒ、テ、彼、レ、ノ、筆、記  
ヲ、借、リ、日、暮、リ、ヨ、リ、電、火、事、場、ヲ、巡、リ、次、ニ、テ  
ア、マ、シ、セ、テ、歎、息、セ、リ、殊、ニ、洗、板、所、ノ、大、臭、ケ、ル  
ニ、サ、レ、ル、心、排、セ、リ、归、宅、後、一、心、不、先、シ、テ  
筆、記、ヲ、直、寫、ス、寫、シ、又、ハ、全、ク、泥、面、草、ノ、氣  
味、シ、テ、十、二、時、頃、ヨ、ロ、キ、リ、シ、余、モ  
ヤ、ガ、テ、睡、ニ、死、シ、判決、五、十、点

六月二十四日(火)?

午前十時在授十第ハ午後四時リヨ  
筆記ヲ直寫シ六時ニ至ル六時半直ル  
ヲ予ヒテ後ニ筆記ヲ返却シ次長  
先部ヲ語ヒ後法部到リ今夏归宅ニ  
ノ就同所ノ並本以後所立ヤ青ヲ  
大事良舞原稿ノ安否ノ向フニ皆  
ナシ云々余ハ大ニ安心ニ岡村部員ヲ  
フ後ハ昨日ノ逃大ノ為ニ試験ニ  
席セシテ大ニ弱ヲ絶法ニ居ルヲ後  
是日ノ連日ノ試験ニ顔色大ニヤツ  
髻ニ珍ラシクニ分斗ツニ是レ居ルヲ  
ハ後ヲ女ガルヲ欲セザレバヤガテ  
後ヲ若キニ例ノ家ニテヒニ同ノ五  
ナルコト大ニ暇ヤ微解ノ体トナリ  
家ニ歸リテ別ニナマラシク空ニ  
奇異ノ空想ヲ空中ニ変ラシメ  
判決回十位ナリ

六月二十五日 (水)

例) 如ク午前の登校如修の進ナリ今日  
色々点取リ知リ得ル (但ニ=字其日)

名	数学	国語	理科	社会	英語	音楽	体育	美術	その他
伊	80	79	60	70	85	79	67	81	
兵	64	73	26	75	80	72	60	78	
山	81	70	60	80	70	78	91	68	
向	73	70	60	75	77	78	65	72	

コレヲ見ルハ 英が余が最 多 点 ナリ 然レモ  
全ク地ノ三人ヨリモ好成績ヲ得ルルヲ以  
テ 譽ムセズ 況ニ中点 取ルハ 實際ノ 実カ  
ラズ 或ル時ハザル 中 家ニリヨク 大ニ  
勉メ 且 日暮 新 寄 会ニ至ラテ 奮 起ス  
テ 立上リ 且 進シ アイワイン<sup>↑</sup>ヲ 中コトス  
十一時 報 告ニ 判 決 四十 点 ナリ

六月十六日

21日ヨリ七月五日デハ、<sup>イ</sup>ヤメヤ<sup>フ</sup>暮シヨリ只ヤ一  
 酒ヲ飲ンダツ肉ヲクソクツ面ヲツツツ馬鹿ヲ云フツツ  
 名向ヲ吐イタヨ併シ余ハ余ノ級中ヲ尤モ達人ナリ  
 余ハ決シテ自慢家ナシ余ハ英雄ナシ英雄ハ自慢  
 ヒス故ニ余ハ自慢セズ。(出ルツガ自慢ゴワイ)  
 自慢セズニ正味及カズ達人ナル故ニ課ハモ一甲  
 成就シ終リルナリ然レモ山下河合ナド云フ  
 下ナラズ男。イコハ失敬下ナル男ソレモ悪ムイ  
 ナラズ頗ルエライ男。何ツレデモイケナイト……。ソナラ  
 頗ル……色男コトハ後納スルゴート云フト頭ヲ  
 継ニ揮ナシ云フ~~細~~奴原ト云フ世苗  
 此汝ハ奴原ガ多イハ困ルサ。ゾート前ハ  
 リア余ハ達人ナルカク課業モテテ身  
 トナレバ他ノ奴原ハザギート云ツテ困ツテ居ル  
 ソレヲ救ナイト云フ決ニモ行カナイ。毎日ケレバ  
 手傳ヒ通學スル余ハ寛仁大度前代未同  
 コト共ナシ或ハ人云ヒカツツ。期クテ支度ニ  
 関字ナク天月モ忽チシテ尽キテ明ケルバコ  
 レ七月ヨリ七月ノ始ノヨリ余ハ旅ノ装ヲ附  
 ハタシテ今日ヲ出立セシ明日ヲ埒明ケル  
 ト待テ置ハタ。但ク七月五日ニ出立ナシ

フ豫算ハ五ナヌ。成り成績マダ不明ナルハ何レモ  
ビク者ガ飲シ酒モ、什食ヲタシコモノ候。通ラ  
バゾ。フンデルノ歴史、点ラズレバ真水ガ六十点ヲ  
出デタル跡ハ皆五十代ナリ。皆々コレヲ見テ青ク  
ナリ紫ナリ黄クナリ白クナリ。南ノ河合ノ地  
段ト歴史ト構造強弱ト皆六十以下ナリ。コレ  
ゾ立派ナル概ナリ。山下ノ歴史ト地質ト六十以  
下ナリバコレ概ナリ。河水ハ力ナク無倫流  
ルナリ余ハ幸シテコノ難ヲ免レタ。伊東ノ大塚ノ  
買大ナルコトハ三ノ巻第四ノ人一人モ残ラズニ  
及リテナリ。有テハ寛典ノ義ヲヘカ悲シ  
ハナク余ノ學ノ之ヲ悲シ。味ナドノ大言ヲ  
吐キテ俗人ヲ惑ハス奴原ノ内ニハ往々  
尻ノ如キモノアリ或ハ尻ニモツカヌ者ナリ。  
河合ノ段次モ先ヅ尻位ノ男ナリ河合ト云  
奴ハ一寸色男然ル男ナリ價ハビロ一文  
ニルガレバニ束三文。一山百文。位ナ相  
場ナリ。學生ノ中ニモコソナ奴ガ居ルカ  
ドモ困ルナリ。何デモ伊東藩誌ガ  
ナリテハ塚ガ明クナイト云フ人ハマサカ  
マイガ義ヲツク余ハ借金ヲツク人ヲ待  
源ノ借金ヲ積ニ入レ小遣錢ヲ作ラシ

欲スル余ノエヲキ所ハナリ呵ハ。  
余ハ空シク廿日ノ費ナレ明日ハ早出立云  
ツ日ノ暮ナレバ余ノ後友江原綱、同村  
新彦、両子来ル余ハ別宴ト云フハ酒一  
升五合斗リト籍、豆腐トドウ取リ寄セ見  
テ三人ト五人ニテ快哉痛飲セリテ見  
山田守弘ノ家ニ招待セラレバ夜半リ迄  
迄セリ山田ハ明日書ヲ持テ北海道へ赴  
カトテ余ヲモ招待シタレ此第ハ強テ支  
辞シタルナリ。七月廿日ヨリ九月十日マデノ  
日記ハ別冊ニ積リケレバ孰ク見ルベシ

九月十一日

斯ノ長計思ハル休期ニ終ラヌ今日ツハ又係  
七面倒臭キ送家學科ニツカルカ思ハバツノ不  
愉快ツ不手中ニ以テ筆ニ及フバツルアラス〇読ル  
床ヲ離テ朝飯ヲ速クハ時業校シハ見ル  
一余此ノ正直人間ハ天下ニ無シ見ハハ時ヲ匿  
ルル時ハ勿レニテ來ルヒノ大ニ稱ツ今日ハ午後  
三時迄有役是令ハ午時十時ヨリ電ス十四切  
由身以テ小村保身兩人來訪ス余ニ旅行日記及  
画圖ヲ示シ彼等モテナス中ガテ兩人ハ其ノ件  
家足ニ着京セヨ足ニ付後、矢島等ト共ニ一昨日  
始ルヲ能シケル也。足心直キニ平田ヲ去キ、  
可成的連ニ知能セトテ午時ヨリ妻令ス人  
々ニ服本録抄、表正隆、津弓新見山崎  
飯丸、伊藤秋喜、カ社屋河及ヒ松若  
トノ指ハ字體則チノ義ニ付大ニ評稱セン  
坐中ハ五ノ歳義成氏ノ書翰到來ニ青年令  
ハ令同スル読ハストノ者ヲ幸ハカシク是ニ於  
テ子供モ一巻シカキ好キ五ノ時刻  
想セリ夜ハツラバトカレラ鳴ス、寤  
カ見來リテ面白ガル、山下來ル程ヲ以  
テ十時寢テカ



九月十二日 (金)

午前三時の加急矢野、兩人来り二人  
共ニ余の家、門人にてせま上るモ、ソナリは  
等ヲ余等ノ杖に挂トモ思フナルベシ、且暮  
ヨリ山田、飲死来ル、山下、作間モ樂リシカ  
酒飲マツルハ、直ヤリルリ、田中、中山  
来リニ之益、酒ヲ傾ケテ、カハ、睡テ、寝ル  
ル十一時迄ニ就ク

九月十三日 (土)

退校後余、兄ト共ニ、父ノ預メタル、親  
戚ニ、後事スニ、人ハ、心不亂ニ、ナリテ、勉メ  
シ、能ク、夜ニ、成ルセリ、コレニ、テ、一ツ、荷  
下ニ、テ、大ニ、富、目、者、思ヒ、ヲ、ナシ、足ヲ、連レ、テ、  
イロハ、屋ニ、行テ、酒ト、肉ヲ、多量ニ、食テ、  
愉快ニ、明カニ、テ、ツマ、熟睡ス

九月十四日(日)

退授後直々親近者ヲ提ヘテ平田ニ到リ  
家父ニ呈ス家父ハ余ヲ見テ「中々ヨク分ル  
ト評シタリ(ソレ(自惚カ?)支ワリ余ヲ近ク  
呼ビテ、汝ハ名ヲ守ル術ヲ書キ居ルヤ、伊  
部位出陣スルヤ、未だニモ誰カ人アルヤ、余  
計行キ届キヤ、?」等、質問ヲ止メ終リニ余ニ  
未だ將來方針ヲ復々問カセ、汝ハコソ續  
ク汝カ没体ニシテ死シテ職セヨト云ハルル  
日暮兄(昭々ニ来リ居ル)ト共ニカキテ引  
キ出シ今出立宴ス宴酣ニシテ余ハ頭上ヨリ  
加東ノ攻撃ニキレノ後力不心得テ責メカリ餘  
ハ心中不満、堪ヘザル様子ナルモ正面ニハ  
大ニ余實ニ從フモハ如ク見セカケタリ。後ニテ  
間ハハ彼ノ果シテ余ヲ後ニ散ルニ要ルコトヲ  
藝妓ヲ聘シテ更ニ酒ヲ飲シ泥酔ニシテ  
家ニ归ル加東モ余ノ家ニ来リテ一泊セリ  
後ニ就テ明日ノ午方一泊ナリキ

九月十五日 (月)

退授後(午飯宿醉のため休校是日同上)  
就志原路ヲ非保町ノ沈殿係松井氏  
許ニ趣ケ来リテ幾句迄、供御矢葛カキ  
ヲ与ヒ就志ス終リテ千坂降ニ都氏ノ  
五人ヲ警守ニ出カケ終ニナ川町ノ江文  
勝ニ肉ト酒ヲ食ム加東ハ心中余ヲ恨  
ミテ余ニ酒飲マセム。向ハハ、退從輕侍  
儀モ儀モト人ナリ哉。彼ハ矢葛等ニ  
テ奴隷ノ如ク之ヲ使役スル牛馬ノ如クシバ  
余ハ又之見ニ思ヒザルヲ而シテ矢葛等ハ毎  
日キト雷共ナリトシテ彼ニ抗抵スルヲ能ハザ  
ルハ頼ルベキコトナリトス十二時少シク醉ヲテ  
リ酒罷シ寝ニ就ク

九月十六日 (火)

退授後休息、後就志原路ノ取リ  
ベニカワヲ眺メテ夜ニ入リテナホノ  
取リ終ニ十時半ニ至テ寝ニ就ク

九月十七日 (水)

朝十時、中山西へ来り、乗務、爲ナリ退  
接後直ぐ二車、大内互之助ヲ訪フ  
互之助ハ春天生ト稱シテ後オコシテ名  
アコ今氏ヲ訪フモハ見、本宅、田中、中  
山ノ余トナリ、氏ハ聊カ酒肴ヲ以テ  
余ヲ供養ス、八時鐘ニテ津草ニ  
上野ヲ經テ帰宅ス十時頃ニ見ト  
野崎ニ出カケビルヲ傾ケテ蓋ニリレリ  
後、此ノ今日大内ヲ訪ヒハ、野崎溝邊  
ノ大内ヲ僅カニ訪ヒナリ

九月十八日 (木) ?

退接野原路ノ間へ夜ニ入リテ夜保何ノ  
松井ヲ訪ヒ次ニ内供ヲ訪フニ矢野ハ下  
痢ト吐瀉トノ混ルル病ニカ、ソテ肝臓  
ノ時節柄トテ大ニ心配ニカ、ガツノ中医  
師ニ来リテ腸カタンハ分リ勿余ハスピ  
子ル氏ヲ訪ヒテ懇決、中ノ解薬ニ就テ所  
ヲ發同ニ家ニケリタル後出テオコシテ  
ト野崎ニビルニテ化食ノ危ニテリ病  
ニ十一時寤ニ就テ

九月十九日(金)

退校後醫<sup>マ</sup>の落<sup>ニ</sup>氷<sup>ニ</sup>夜<sup>ニ</sup>入りテ  
平田<sup>ヲ</sup>訪<sup>ヒ</sup>魏<sup>次</sup>ノ復<sup>明</sup>報<sup>シ</sup>又<sup>叔</sup>父  
ノ新<sup>年</sup>及<sup>其</sup>父<sup>兄</sup>之<sup>後</sup>云<sup>フ</sup>喜<sup>也</sup>  
筆<sup>記</sup>セリ<sup>ニ</sup>テ<sup>大</sup>ニ<sup>時</sup>有<sup>ク</sup>黄<sup>之</sup>丸<sup>時</sup>事  
内<sup>供</sup>ヲ<sup>訪</sup>ツ<sup>二</sup>矢<sup>喜</sup>モ<sup>大</sup>ニ<sup>快</sup>方<sup>ナ</sup>リ<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>  
余<sup>ハ</sup>體<sup>ヲ</sup>引<sup>夜</sup>ノ<sup>途</sup>ニ<sup>就</sup>テ<sup>医</sup>中<sup>平</sup>野<sup>宛</sup>  
ト<sup>云</sup>フ<sup>牛</sup>肉<sup>店</sup>ニ<sup>入</sup>リ<sup>好</sup>酌<sup>ニ</sup>合<sup>シ</sup>ク<sup>候</sup>也<sup>ト</sup>  
微<sup>解</sup>ノ<sup>体</sup>ヲ<sup>亂</sup>リ<sup>引</sup>テ<sup>終</sup>ニ<sup>就</sup>テ<sup>味</sup>ニ<sup>十</sup>  
時<sup>事</sup>ヲ<sup>夢</sup>ニ<sup>故</sup>郷<sup>ヲ</sup>見<sup>タ</sup>リ

九月二十日(土)

正午ヨリ激<sup>雨</sup>ナリ<sup>ニ</sup>モ<sup>三</sup>時<sup>比</sup>及<sup>大</sup>ニ<sup>晴</sup>シ  
タリ<sup>余</sup>ハ<sup>又</sup>ト<sup>其</sup>味<sup>ヲ</sup>出<sup>テ</sup>兼<sup>テ</sup>酌<sup>セ</sup>ル<sup>如</sup>  
ク<sup>本</sup>館<sup>四</sup>下<sup>里</sup>ノ<sup>醫</sup>生<sup>局</sup>ニ<sup>行</sup>ク  
等<sup>ス</sup>ル<sup>モ</sup>、<sup>田</sup>中<sup>、</sup><sup>中</sup>山<sup>、</sup><sup>本</sup>堂<sup>、</sup><sup>三</sup>堂<sup>、</sup><sup>山</sup>岡<sup>、</sup>  
<sup>大</sup>内<sup>、</sup><sup>那</sup>巧<sup>、</sup><sup>舟</sup>等<sup>又</sup>等<sup>ノ</sup>人<sup>、</sup><sup>中</sup>林<sup>等</sup>  
一<sup>氏</sup>ハ<sup>和</sup>シ<sup>ク</sup>席<sup>セ</sup>リ<sup>滞</sup>ナ<sup>ク</sup>監<sup>査</sup>ノ<sup>後</sup>  
秋<sup>田</sup>汽<sup>路</sup>町<sup>、</sup>万<sup>代</sup>軒<sup>ニ</sup>テ<sup>宴</sup>會<sup>ス</sup>ル<sup>所</sup>  
田<sup>中</sup>氏<sup>、</sup>席<sup>上</sup>ニ<sup>演</sup>説<sup>ス</sup>ル<sup>體</sup>ヲ<sup>ビ</sup>ル<sup>ト</sup>  
料<sup>理</sup>ノ<sup>馳</sup>走<sup>ス</sup>ル<sup>所</sup>ト<sup>モ</sup>シ

交分ナラズ即珂如キハ尤モ不満足  
ナニ教付キナリレ。空ヲ出。中々高尚ニ下  
樂味アリ一同教シタルハ七時半ナリシ  
コト。今ハ樂シク活セズト云フ。吾ヲ取ルニモ  
ミレテ笑ニ高尚像真ヲ至トス。縁竹ノ引  
活酒ヲ食ボル世者ノ争トハ大ニ違フモ  
ナリ。嗚呼エフイ哉。溝陀今々負、嗚呼  
盛ル哉。溝陀今、溝陀今萬歳。此カ域  
余ハ直ヤレ折戻ヲ得カ。不在ナク由テ長後部  
ヲ得ヒテハ。ハレオハガレ。ヲ弄ス長云部ハ尺八  
ヲ弄ス中々像真ナル樂シクシ。余ハ此年  
四家ス。途中足ニ違フ。同ハ。祝摩ヘ行テ  
ト云フ。余ハ直ヤレ日。吾ニ柔竹ヘ行テ。柔竹  
ハ女真大史ヲ修リ。余ハ此年ナ。續シ助ト  
東玉トナリ。時ヲ後シタル。乃ソ。續シ助ヲ  
備カザリ。ハ。遣。摺。トガウ。東玉ノ。巧シクハ  
満足セリ。十時。還。ト。ハ子。勿。逢。来。水  
ヲ。カ。カ。飲。家。ニ。廻。リ。テ。且。記。シ。テ  
十一時。還。キ。寢。ニ。付。テ

九月二十一日(日)

今日ハ日曜トシテバダグアスト朝露ヲキレシ  
リ起テ出テタルハ多ク九時ナシテ番トシテ  
バシ余ハ直ヤニ車ヲ籠リテ銀田町ナル所ニ  
法學士ヲ訪ヒ名手銀則ニ就テテテテ  
次ニ易士見所ナル中村達左郎ヲ訪フ木下清  
敬氏ニ車ヲシテマツ三十ヶノ毎況後去リテ  
津保町ナル松井氏ヲ訪フ不在ナリ即チ陸田  
赴ケバ叔父ノ那須ニ行ケト云フ余ハ土産  
圃トシテ佐藤ト共ニ書翰ヲシラバドスル内正  
年ニツケテ余ハ屋敷屋ニシテ津保町へ下ル  
中陸田農一即ニ逢フ彼ハ余ニ猪ト合セテ  
眞理ト云フ雜言ヲ与ヘテ余ハ令用入リテビ  
一畧ト化ケ大ニ食ヒテ再ヒ陸田ニ廻リテ佐  
訪フ完善幹治め勅刺居リカキ余ニ一寸  
手譯シタル後ハヘンテガナル調子ニア高ク  
何オカ音價セシ勉強ヲスル積リテ惟カテ  
取ツル矢島坊ノ病大ニ快キ風ナリ午時ニ時半  
加定ニ泳浴ヲ終ル頃井上銀次郎先ニ東  
ル陸田ハ農耕大專一條ヲ四時半井上  
ル視察ヲ認ルル後兄ハ陸田助先代款  
圃キニ行ケト云フ余モ圃キヲテ圃キヲテ禁テ

ガソク(スル)様+レト余ハ今夜津保町へ行カザルベ  
カズ七時の完葛新湯スル約束+リ無理ニ耳ノ  
蟲(一奇軸エライソ<sup>滑</sup>遊<sup>遊</sup>)ヲ落ケ付ケテ余ハ  
津保町見ハ表竹、別レ別レ出テ、行ク、  
ト見送リテ政岡カ、政+トコトモ身ニカル、雨  
ハ晴レテモ晴レヤヌ、ナンカト云フアロウ、  
見ハ無銭夢中ニナラズ、帰リハ手放シデハル  
マヒ、何カゲ一盃ヤラズ、已レモ買ヒズニハクツコ  
カ、グビフコカト考ヘテガ津保町ニテ原路ト  
校正ノ清取リ直ニ車ヲ飛ヒリヨク見バ。完葛  
ハ待テ居ル。久々ノ對面+レバ兩人面白ク  
テ話シカガ得ハ余ハ自園ニ作ル大林檎ノ山形  
ノル梅サシ煙ヲタリ。品ハマラヌモ、ナレバ彼ガ  
厚情ハ余ニ満足ト喚ルモノナリ。彼ハ學ヲ  
好ミ余ヲ學者ト尊敬シ余ヲ良友良師ト敬慕ス  
ル故余ニ彼ヲ見接テザル也。余ハバドホカ  
ノ控意ヲ聞カセキツンベーンヲ馳走シソ代  
リ校正ノ手傳ヒヲサセタルガ彼ハ不慣レニ全ク  
益ニ立テザリレハ近頃ノ不滿ナリ。九時半完  
葛ノ別ル彼ハ途中ニテ大雨ニ逢ヒ車賃路費ヲ  
費セシムベシ。余ハ室内ヲ清メ日記ヲツケテ今  
日午後ハ勉強ニシカハル。是ヲ固スヘテ



ヲ忍ノ次ニ筆記ニ後子ス十二時ノ鐘聲  
ヲ聞キテ寤ニ此ク。是ハ此ノ時ナリ初夜セシ  
多分外泊ナルベシ見ハ一昨日加藤某徳  
ト飲シ夜席へ行キテソノ夜外泊セソノ  
高田江原銅ヲ誘ヒテ同シク外泊セソフレ  
コトレド両方ナガク大醉ニ至リテ欠ヘ登  
朝ヨ花スル直ヤ友人ノ如ク倒レ卧レ  
満面朱必ク酒氣分々為ニ日ノ辱課ヲ  
急タルニ至リテハ余亦モコレニ賛成スル  
能ハザルナリ。嗚呼余モ老ヒタリ。些ト沈  
寢ニナレカレシ。些ト自惚レトシロクテモ  
言フ<sup>（音）</sup> 憂ノヨカレシ。ヨレクヨソノ上策。  
余ハ加東、矢島、土田、深沢ナド云フ取  
ルニ足ラヌ如原ヲ酷ク呼ビテ自ラ笑ヲ  
催ヤント谷久ス先ツサレ當リカレ東カラ呼  
ヲ致シシ。ヤイ加東耳ガ痛カレガサレク  
我慢シテ余ノ金言名句ヲ拵聽セヨ。  
ヤイ加東、コリヤ加東、汝ニ云フコトハ富士山  
ヨリモドウザリク太平洋ヨリモコトアル。一  
々聞カセヤイガ支レテハ汝ノ耳カワブレテ仕  
舞フダロト思フカラ本カレ許ク聞セテソレデ  
勘弁シテツカス程ニ余、電仁大度ヲヨクク

賢くぬたワエ斗リモ忘レマイゾナ。汝ノ前生ハ  
狼デアツテ罪ナキ小山羊ヲ喰ヒ盡シテ地獄  
ニ落レタ。汝ハ現在ソレヲ為シテアル。汝ハ  
人ニ誤ビ詭<sup>ク</sup>コトガ大スキデアル。何ガ人ノ  
嫉妬ヲ取ツテ一盃ノ酒ニデモアツ付カレタツ  
根性デアル。汝ハカシキ誠心ナシ。汝ハ  
カシキ氣節ナシ。汝ハカシキ羞恥ナシ。汝ハ  
カシキ勇氣ナシ。汝ハ無夢ナリ無職ナリソレテ  
見識ハ雪隠ノ底コリ低シ。汝ハ自惚ナリ。  
汝ハ詐偽者ナリ。汝ハ佞人ナリ。汝ハ自滅ナリ  
汝ハ色好ナリ。汝ハ酒癖重シ。汝ハ礼義  
ヲ知ラズ。汝ハ狗胆ナリ。汝ハ小人ナリ。汝ハ  
屁<sup>ク</sup>ヲモ便ナレ屁ノ擧外云ハクテ非キナ  
ル學藝デアローゾ。汝ハ盜ニ根性アリ。汝ハ  
一生幸福ヲ得ザラン。汝ハ余ヲ恨ソシ。  
汝ハ余ヲ慢シ。汝ハ余ヲ欺カレセリ。コレ  
カ東ソナニ願フ者セストモヨイト云フ内ニ  
青ナツタコレ青セストモヨイゾ。汝カ東。  
汝今夜糞溜ヘ身ヲ投げ自殺スニ夢ヲ見ヨ。  
汝ハ汝矢張り手ヲ下スヘキ明日ニ瀧ニ。  
兄ハ内村ト夜尿ニテ逢ヒ帰途ニ是ノ歌  
ニ十二時半大醉ヲアリヨル。〇イ 狼ノ子

ハ明日モ宿醉ナラン。

アガカ東ニ云ヒ残シコトガアツク。カカ東ヨシハ  
ワラハドーモ負ハヌ。ヒニ癩ニサフルケタイナ  
ワラフキツヒオビヤルゾ。汝ノ鬢ガ深ク此ニシテ居ル所  
ハ余ニ似タイルゴロハ似テ非ナルモシテ何故ト云フ  
余ハホトクニ深ク此ニシテ鬢ツ大ラシムト居モ汝ノ  
ハ吹ラズ。頭鬢カ髪ノ中央ニ在テ肩同ク臨ニテ直シ  
テ下ノ方ヘ三角ナク下ガツテ居ラツシテ鬢ガ此ニ  
ヒ居ル様ニ見ヘルノガ。汝ノ頬骨ハ妙ニ高ク突起  
シテ尻テ野郎ノ人相ヲ示ス。故ノ眼ハワクワクシテ  
居テホシヤトシテ尻ヲ敷ク。此ノ色眼ヲツクツ  
云フ風デツシテ盗ボク眼ノ分子モ余ニシテ居ル。  
汝ノ眉ハ毛良ガコラ病ニ罹ツテヘドク吐イオトク  
風デアル。汝ノ鼻ハドーモ変テアツテ形容ガ出  
来ナイ。汝ノ口ハ突ニ妙デコゴアツテ一ツモ愛嬌  
ガナイ。ホク餅ナラニツ一度ト云フ風、酒ニテ焼  
酎デモ五合一ト云フ風、人ノ悪口ハ一番得意  
ト云フ風、シラガナクツテ怒バツテ、暮ノ様デ  
ダボハゼノ様デ三島オセガ東風ツクコツタイヌ  
風デ。逆ニ沃山ト云フ風デ。伊早突ニ面倒ナ  
取デハアル。汝ノワラハ突ニ馬鹿デリ若ク然ル  
ニ汝ハ色男デト思フツ居ルゴロ。ニタツテ着ナ。

汝加東, 才シ鏡ヲモ見タラヨカウ。  
汝矢當, 今度ハ汝ノ番ダ。一サコハ来ラテヤト  
座ツテ手々ヲ膝上ニアゲテ。顔ヲ上ゲテ  
ヨク聞キヤレ。汝ハ薄野昆デアル。氣轉ノキカヌ  
奴, 胆王ノ小サハ奴, 世オハ蚤ノ尻杓モ無ク,  
言法モデレデレデアル。併シ小供丈ケニ臺地  
ノ懸ノナイ所ガ見野ジヤ。汝ノ顔ハ余ガイワモ  
書ノ画ノイワテイルト云フ評判ダ, 汝ハ實ニ  
仕合ニ物デアル, 汝ノ頬ノ肉ガズツト凹ンダ  
ヲ汝ハ憫シテ奴ニナルダ。併シ余ハ汝ノ  
正直律義ナルヲ喜ブ。汝ハ田舎ノ野中ニ生  
ヘリ一本杖デアル。正直ニ生ヘルヨリ外ニ何  
ニモ懸ガナイ。汝東洋ニ出タラ兩風ニサラサ  
レテ幹ガ曲ルカモ矢ハレヌヨク心掛ケテレバ  
ナランゾ。タツト余ヲ見習フガヨイワアハ……。

九月二十二日(月)

明日休養ナリトノコト頭ニ浮シテツノ娘計  
 コトヲヘラレス"四時 事果テ終ルナキ  
 リヨリテ休息ス(コレツ芝キ正午長衣卸来  
 リ)ルニ鎮目薬一錠ト云フ 洗淨ノ字ニ来坊  
 セリ 洗ハ別ニ面白キトニ申ス余ニ面ナケ  
 ルトツ依テ授ケルナリ 日暮 彼 知ルニ全ハ  
 夕飯・後 津保町ノ松井ニ赴キ夫レヨリナ川  
 町ヲ訪テ小川亭ニ居ニ立ケテ夜席ニ出揚  
 ヲ見バツタツ、穰ノ助、朝貞日記、ナジカ  
 サレニ橋孫ニヘテ直サニ入リテ聞キタルニ  
 彼ノ女ハツツキト上達シ中々ノ月歌トナリ  
 鶴司(沢津ノ股) カナハニシ  
第ハ中ニシ 六十五点  
 東玉(尾上部西) カナハニシ  
第ハ中ニシ 五十点  
 駒ノ助(日誌三ノ切) カナハニシ  
第ハ中ニシ 五十点  
 綾ノ助(宿屋ノ大井川) カナハニシ  
第ハ中ニシ 七十五点  
 併シ彼ノ助ノ七十五点ハ可愛ソク知  
 ルベシ多シヨレバ家又モ若竹コリヨル但シ  
 彼ハ今日宴多クソレヲ折談ヲ授ヘヨラレタ  
 余ハ能ク法ヲ授テ校正シ見ニシテダラ食  
 ヒ十二時迄キ居ニ就ク今夜ハ一面  
 ナリ。

九月二十三日 (日)

今日ハ秋葉皇皇登テ大祭日コトナク天気ハ  
ハ分通りナレバ余ハ八時起き出テ九時ヒ更マテ  
夜ヲ終リ訪テ夜ニ終リ身籠ヲお心ナル内村  
邊次先也ヲ訪ヒ鎮目ヨリ後ヲサレルスル  
何ノコトカヲ尋内ス終リテ捲ハ抛テラス内  
早正午近クナリ内村代ハ余ハお心ヲ取り  
爲セ呉レタレモ余ハ元來就セ好マズ加之今  
日ハ心地ハ常ニ成シテ食慾全クナレバ  
ニ暑斗リテカケタルニ實ニ炎ノ毒ナリシガ是  
れハお心ノ片ヨリ余ハ不思為ニ頭痛ヲ催  
フレタルモ終リセバ自ら癒レ思ヒ内村代  
傍ヒテ津草ハト出カタル久シクニテ野ニ後  
ナル田圃ノ景色ヲ眺メテ洗フツツテ根津  
ヲ来リルニ余ハ空腹ト渴ト頭痛ハキビシク攻  
メ立テラレテ火ニ南口セリ由テ直ク車ヲ俵ヒテ津  
草至リ内村ハ花川戸ノ用道ニト行キ毎ハツ  
リトヤペノラヌヲ見タリ。奴ナテ余ハハノヲマ  
ズ欠ケルガ聞テレニモ思ヒレニ勝ル見事ナル  
ナリ措クハ遠景華表ニ居キテ景ニ迫ラズ  
然レ激戦ノ実況ハマブ寫レ得タリト拜サレバ  
カラス余ハ欠ルテ大凡四十五ヶ分ノ間ニテ

フワ<sup>出</sup>場内ノ休息所ニ入ラントスルニ内村氏  
カヨリ来ニ逢ヘリ因テ相伴ニココニ入テ麥<sup>1</sup>面<sup>1</sup>  
カセートヲ化<sup>1</sup>負<sup>1</sup>ケテツコノ家ノカ女年ハ十三斗<sup>1</sup>リナ  
ルガ稀有ノ羨形ナル上<sup>1</sup>且<sup>1</sup>返<sup>1</sup>頗<sup>1</sup>ル礼節アルハ感  
心スベキモノナリト余ハカ<sup>1</sup>眼<sup>1</sup>ト<sup>1</sup>ト<sup>1</sup>樂<sup>1</sup>マレシ  
カドモ頭痛ハナキ烈シクシテ堪<sup>1</sup>ユベカラズ余  
ハ先<sup>1</sup>分<sup>1</sup>ニ我<sup>1</sup>慢<sup>1</sup>シテ公園内ヲブラフキニ數<sup>1</sup>分<sup>1</sup>  
月<sup>1</sup>ト云<sup>1</sup>フ小<sup>1</sup>児<sup>1</sup>カ大字<sup>1</sup>ヲ揮<sup>1</sup>毫<sup>1</sup>スルヲ見<sup>1</sup>ナドセリ又<sup>1</sup>園<sup>1</sup>  
ノ園<sup>1</sup>ヲ出<sup>1</sup>テ車<sup>1</sup>ヲ駛<sup>1</sup>シテ上<sup>1</sup>野<sup>1</sup>ニ赴<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>カ<sup>1</sup>時<sup>1</sup>時<sup>1</sup>休  
息<sup>1</sup>シルニ余ノ頭痛<sup>1</sup>何<sup>1</sup>ク烈<sup>1</sup>シクハ<sup>1</sup>殊<sup>1</sup>ニ内村  
氏<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>カ<sup>1</sup>車<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>駛<sup>1</sup>シテ<sup>1</sup>停<sup>1</sup>留<sup>1</sup>シテ<sup>1</sup>松<sup>1</sup>井<sup>1</sup>氏<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>赴<sup>1</sup>テ  
更<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>其<sup>1</sup>川<sup>1</sup>氏<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>カ<sup>1</sup>ヨ<sup>1</sup>リ<sup>1</sup>道<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>尋<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>其<sup>1</sup>ノ<sup>1</sup>頭<sup>1</sup>痛<sup>1</sup>イ  
ユク烈<sup>1</sup>シク熱<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>覺<sup>1</sup>シ<sup>1</sup>喉<sup>1</sup>頭<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>火<sup>1</sup>傷<sup>1</sup>ノ<sup>1</sup>覺<sup>1</sup>エ<sup>1</sup>試  
ニ<sup>1</sup>暖<sup>1</sup>温<sup>1</sup>器<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>用<sup>1</sup>シ<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>計<sup>1</sup>レ<sup>1</sup>バ<sup>1</sup>三<sup>1</sup>十九<sup>1</sup>度<sup>1</sup>四分<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>昇<sup>1</sup>  
リ<sup>1</sup>余<sup>1</sup>ハ<sup>1</sup>食<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>ス<sup>1</sup>レ<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>復<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>此<sup>1</sup>キ<sup>1</sup>レ<sup>1</sup>ガ<sup>1</sup>七<sup>1</sup>分<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>至<sup>1</sup>ル  
井<sup>1</sup>三<sup>1</sup>郎<sup>1</sup>来<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>生<sup>1</sup>計<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>示<sup>1</sup>シ<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>所<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>示<sup>1</sup>シ<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>切<sup>1</sup>ナ  
リ<sup>1</sup>余<sup>1</sup>ハ<sup>1</sup>復<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>シ<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>コ<sup>1</sup>ヲ<sup>1</sup>キ<sup>1</sup>、<sup>1</sup>ス<sup>1</sup>ガ<sup>1</sup>ン<sup>1</sup>名<sup>1</sup>金<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>十<sup>1</sup>キ  
ヲ<sup>1</sup>付<sup>1</sup>テ<sup>1</sup>歸<sup>1</sup>リ<sup>1</sup>タ<sup>1</sup>リ。

21

11.20

九月二十四日(水)

午前十時迄三十八分半以上位ナリモ午後  
三十九分以上の道シタリ一時長次郎、ナ林  
来レコトハ 森氏ヨリ 通知ニヨリ 今日加藤春  
光氏方へ赴クヘキニ付 様子向合セニ来レ  
テ三時頃本宅、三時来リ余、爲ニ精シ  
修業シケルタリ 日暮 山下、近々来レ余、病  
ヲ問ハレカ故ナリ 兩人ナカテリヨル次テ 鎌田  
氏来リガ 真々ニ加レリ余、宿ニ就テ

九月二十五日(木)

今日モ熱去ラス 頭重キヨシテ 休校セリ 今日  
硝炭銀ヲ用ケテサレシ 快方ニ 赴キタリ 今日  
二十日ニ 写シケル 写真出来タリトテ 足持ヲ来  
レリ 夜ニ入リテ 熱去三十九分ニ 近シ 余ハ 西洋  
料理ト 日本酒ヲシテ 傾ケテ 寐ル



九月二十六日(金) ?

今朝ハ熱モ頓ニ減シタノ心地ヲスガシタ  
レコト全ク昨夜ノ美味ト酒トノ為ナリ余ガ  
平常美味ト酒トニ賛成スルモ蓋シコノ意ニ外  
ナラザルナリ登壇セリト思ヒシガ大ニ奮発  
シテ午過ぎハ休校トシキヨソノト  
出カケルガ可ナリ工合モ悪カラズ四時  
半リ迄シテ見バヤ、寐シテ固テ大ニ  
休息シ日暮後ハトオハガシテ静ニ  
ガ明月白庵ノ如クナレバ思ハズ散ラ飛ヒ  
出シテトアアモ無ク本邸中ヲアルキ廻  
リテリ着付ノ為ニ行キテ出陽ノ見ルニ後ニ  
助ノ管原餘ノヨクモアルマシク殊ニ彼ハ  
殆ト終リタルト云ナレバ毒通リセリ元町へ  
行キテ見ルニ川上晋次郎ノ西遊漫遊アリ  
演説ハ四ツアリタル中山縣大臣へ九柱ハ  
呈ストスヲモトモ退席ラレタ見ハタツ木戸者ハ  
夜席ノ録ニ入ツテイ、マダ早フゴザイマ  
ナド云フハ外意ナリ也査五六名出入ス  
ハ場内ヲ静雑ナシニカガト事ニ入場ス  
拒ムガ為ナリ。余ハ再ヒ四丁目へ出タルハ  
花田厚夫ニ逢フ久シクナレバトテ兩人ニテ

天竺社内、西洋料理に入り、昨、酒と料理、食ヒタリ余ハ彼ニ法學上ノ問題ヲ  
カハニ行リ、一ツモ是ナルヲ能ハスソノ向  
ハ、刑法ト治罪法ト、區別及ニ關係  
如何

2. 治罪法トハ一体何物ナルヤ

3. 民法ノ定義如何

4. 族氏、國氏ノ外ニ普邇人民ト云フ語アリ  
學術上如何ナル意味アルヤ

等ナリシヲコノ内余ニテモ隨分コジフケラレル物  
モアルニ、専門家タル者余ニ先内サレテ聞ク  
ルトハ情ナシ況ニキコノ平凡ナル易向ニ托オ  
ヤ。ア——情ナキハ花田ナル哉。家ニ居ルハ  
樹ニ近シ即チ藤ニ就ク。兄ハ昨夜外  
泊シ今朝一ナ短夜セシ様子又々外出シ  
テ今夜モ外宿セリ

九月二十七日(土)

正午ニテ退校帰宅シ大い室内ヲ整理  
シ暫時休息ス午後二時半加東、矢島  
来ル。着シ余ハコノ日死ヲヒルダテ彼ノ批  
評ヲ見セタラドロー。加東ガ今笑ヒッ  
何カニヒオルソノ彦ハ共貴ヲキクダテ煮タ  
奴ヲ食フタキノ様ニナルデアロー。彼ノ手足  
ヲ懐リノ前ニ揮ヘルデアロー。矢島ノ手足ハ  
恐レノ前ニ揮ヘルデアロー。余ノ手足ハ氣  
ノ毒ノ前ニ揮ヘヌデアロー。併シ余ニ罪ガ  
人ノ惡口ハ散々ニ并ベテ置フソレヲ人ノ前  
デハ世評ハ一フモ云ハナイガ 養ノモシナイガ  
ソ一頭カラ惡口モ云ハズニユルシテ置トハ。タ  
ガ……、加東ノ方デモトクニ余ノ真似ヲ  
シテ尻ルノカモ知レンヨ……。アイツハ余ニ  
非常ニ威張ラレタ翌日……余非常ニ説諭サ  
レタ翌日……アイツハ意地ノフルイ奴ダ、人ヲ  
困ラセルヲ斗リ云フ奴ダナド、シリニ余ヲ懲  
ロシト云フコトナレバ。余ハ餅菓子ヲ馳送シ  
リ恥ヲ山田欽死氏来ツテ復ラシメ。日  
暮ニ客歸ル。余ハハントオルガソラ鳴ラシメ  
飲水小見ト案ニシテ後若竹ヘトクシ

土佐彦	(合邦家)	五十点
綾し助	(了洞堂)	八十点
照勝	(スガ原, 寺子居)	四十点
東王	(比叟松花川)	七十点

土佐彦ハ相カハラス、ギーギート云フマツタ  
 声ニテカニモ艶ナシ。綾し助ハ上出来テテ節モ  
 カモ声モタツプリトシテ溢レコホル斗リ殊ニ  
 和歌の浦子モ名所ガイセテ、一子推院ニ  
 王津島、三子~~浦~~浦子塩巻ヤ、よーい、  
 よーい、よーいと一ふー一〃と唄ハ  
 謝ハ無暗ニ感動ニテ殆ト夢中ニアリナリ  
 人多シ声亦哉声亦哉節ハ声ニ次ク。  
 照勝ハ一字々々ト出カケタルヨキガ出し接  
 け子ある所ヘト出たモとイナレテハ一の間  
 違ハカト思ハル斗リ。夫れ子野也返リモ  
 出来奈イと思フカ、東王カ音實際スレテマ  
 デテ止決ナリ。その上、東王ノ囀モ亦ク、  
 座落ト尚若ク笑ハガツケナク、カンシノ泣笑ハ  
 モ異シタルハ不都合ツ。東王ノ長兵衛家ノ  
 段面白けれトガ声ガ面白カド。幕ハ  
 亦や琴賣ノ子推會アリ。唄ハ聞く子足ラ  
 くと三味線亦シ聞くベシ。午々ナリヤ

今夜ハ归宿野郎心ヲ起シタレモ囊中少シ  
不足ナリシ以テ無恥ニ大人シク帰郷セシ  
リ。

今夜夜所ハ岡村邦彦ニ逢フ訖度ハ岡  
山兼光氏ト共ニ~~同~~来リシナリ岡山ト云フ男ハ  
中々簡單素直ナル男ナリ中々感心ナリガ  
アル代官社令デ名アルモ無理解デハナレト  
思ハル、岡山ナキ且ツ然リ況ンテ僕オト  
鼻ガ急ニ高クツクソーナグマー街キ玉ヘジソ  
レデモジソレデモマー……僕ノ女ルキモノハ山也  
度或ル一社令デ名ヲナスコトガ出来ト  
思フヨジフン自惚社令デカチジマーソナ  
モノサ。

サレク寄書ヲシハナ一冊奉送シテ  
見ハ今夜モ外泊ナリ

一昨日ヨリ急、夜更け冷トハ

九月二十八日(日)

午前七時起き出テ正午ニテハ字課  
ヲシラベタリ、原稿ヲ綴リタリシテ暮し  
タリ尤モ其ノコト小村彦我氏事ヲシテ三  
十分ヲ待テテシト矢ルルヘシ昼飯後  
ハルツオルガノノ研究ヲナシ自ラ借リ作  
リヲ見タムガ中々工合ヨク行ク余ハ餘  
程ノ道ニ致シ達シタソナリ(又シテモ  
自惚デゲス)三時家ヲ出テ先ツ平田ニ  
行キテ見ルニ山縣伯ト井上法判長  
官トガ来リ居ラレタリシ余モカル高貴人  
ト交際シキ見タキモノナリ穀一ヶタン鬼ガツ  
ツウカ? 有用君トハツツキ合ヒ玉ヘ  
ナドイ言フテ見タキモノナリ。御供ヲ汚ッ  
誰モ居ラ子バ一書ヲ残シテ同家ヲ去リ  
神保町ノ松井氏ヲ汚ヒ小川亭ノあヲ  
通ル所ニ今夜ノ後ヲ物ヲ見バ殘さん  
菅原ありコレ竹町ノ白石呼ビ比スル  
善像リト思フ故今夜ハコト決シテ  
家リヨリ見レバ只今御供ト矢島トカ来テ  
帰ツタ斗リノ所ナリト兄ハ云ヘリ兄ハ余  
ノ不在ノ内ニヨリ来レルナルガ今日ノ案直ク

トテ夕飯モ食ハズニ出カケタリ 余ハ静カ  
ニ夕飯ヲ終リツラク思フニ今夜ハオガ  
嘉平ノ家ナリ嘉平スレバ必ス爰へ来ルベシ  
早ク出テ早クワラシモノト思ヒ手紙一枚ヲ  
手早ク惣ノテ残シ置キ 祿保ケへ至ラテ  
松井氏ニ御座ノ代價ヲお拂ヒフルヨリナ  
川亭へクツケタリ

東玉 (鱧巻)	75.
駒之助 (小坂郎助)	83.
後之助 (寺子屋)	88.

東玉ハ声段々ニ響クナリ 様子ナリ惜ム  
ベシ 駒之助ハ中出来ナリ 次ハ寺子屋ナリ  
ガコノ舞大丈ニ 餘程六ヶ敷キモノナルベシ  
千代ト浮世ノ女房トグサシテ 区別出来ヌト  
松王ノ惣ノ内ニ 喜ヲ食メル言ハレ凡テ大ケシ  
殊ニ音聲院ノ場ハ 文句ナレノ言葉斗ナリ  
ハ大丈ノ 腕次ヲト申ス所大丈ノ心得  
揺一ツテヨクモフルクモナル故六ヶ敷ナリ  
野辺医リノ 娘ハ、御座 若君 諸共ニ云  
ベトアルガコノ 節ハサシ早急ルノ 矢アリ  
カハ 緩ニ唄フ方 理屈ニモ 個子ニモトナ  
ト思フ 余ナレバコトヲ 改良シタイモノナリ。

ソレハ儲オキ綾之助ノ出来ハ可ナリト云  
ヒテ可ナリ。何レロ人氣沢山ナレバサレ位  
マツク出来ヲモウマクヤツト思フコソ是北  
ナケレ。ハ子ニナルヤ云余ハ大マイ五鐘ヲ  
投シテ脱車ヲ飛シニ雄瓦半ハ待ツテ  
居ルダロト大急キニ急キテ归ルをシ見  
バ何ノ……誰モ来ハシマセンデレトノ箱  
ノシラセ……馬鹿ヲニー、コナコナテ今朝  
アタリデハナカッタ、帰り道デ牛肉屋ヘデ  
モ飛ビ込ニ腹一パイ食ツテ、飲ンテ、和  
酒ヲナツテ、今鳥豆デ月ヲ眺メノガテ家ヘ  
归ツテ、吐反ク嘔イテ、下痢ヲシテソレテ  
病氣ニナツテ停校ヲ休ンデ甘イ滋養ニ  
ルモノガ食ツテ見タカッタ。序デコレヲ  
ナツテ満天ノ人ヲ驚カレ(雅モ習キリーモノ)  
テヤリタカッタ。

ザレク雑用ヲナシ十一時半寢ニ決ク



九月二十九日 (月)

午の四時半ヲ電ニテ見レバ家ヲ来リテ  
在リ内村達迄モ来リテ在リ其ニ今日出  
来シ者ハ守親迄ヲ七号ノ領布ニ付カ  
居レリ余ハ家ヲト久ルノ對面ノ口祖ヲ  
ノベルト云フ面倒ナクヲナサズ、ナ  
イフ着イタダ、位ヲ向ニ付セルヲ留  
布  
方ノ事務モ一段片ツキタルハ四人ニテ日暮ヨ  
リ罷リ罷ヒ出シ今日ハ夜厚ヘ行ッベシテ  
先ツ中野ノ平野屋ニ入り十六夜ノ月上  
ルヲ眺メツハ一酌ヲ催シザツキ上ケテ  
表竹ヲノツク、後ハ尼ノ山崎ト云フ出物  
ナルガ最早通ルバトテ直ヤ人カラ倒ヒテ  
小川亭ヘト漂クニエタリ

東玉	(沢津の飯)	77
鮎助	(ペンサ上使)	82
三巻助	(平右印位家)	85

酒助ノ新格上使中々の上出妻ナリ後ニ助ノ  
計ニテ室イフ圍きてカヨシホヤリ歌ヲ宣ハ  
彼ニセウニ云ケ怒キあるカ相聲ニヤワラシ  
タリ。

午時半ヲ電ニテ全幕モ明月セ電照シテ流シ

歩に帰る途中暮靄と秋夜とを人の心は  
何となく異なる所はを海したるが余  
ト之に於てハ終に真目の浅海を歩せり  
併に余の復を昔と得たり者ト自信スル  
外ナシ家よりリテ見角スル内ナ一歩を  
り即ち麓に付く

九月三十日 (火)

正午長谷部十田邸より雑沓配布の  
キテ分擔、各ヲ取リ吳レリ長谷部ハ中々  
働ラツテ神妙ニ存ズルゾ満足ニ思フゾ。  
五時半帰宅直ヤ、雑沓配布方ノ事務  
ニツカニニ終ニ日暮ニシテ余ハ直ヤ  
家ヲ飛ビ出シ先ツ須田、青柳、阿部、関、  
成立等会ト雑沓配達ノ小使ヒ役ヲ務  
ワサヲ我ノ慢シヤウヤク陸月見ナル御  
供ノ家マダタドリ養キヌ。今夜コソハ御  
供、矢島、千坂ナドノ小供等ヲ引卒ニ  
餓鬼大将トナフテ上野ハ月見ニ出カ  
得量ノ屁理屈トヘホ楯撥ヲ聞カセ  
テ彼等カ敬服スルヲ見テ樂マント思  
ヒタルニ家身ハ今日早ク来リテ彼等ヲ  
誘ヒ出シタリトノトニテ加東狸ト千坂氏  
トニシテ流シ居ル余ハ夜流路刻ノ後  
一寸平田ヘ行キシニ妻室ノ子(後ニ  
聞ヤハ高木弘及家足ナリヨシ)ニヘ直ヤ  
引キカヘシ加東ト千坂トニ月見同行ヲ  
勸メシニ加東ハ風邪ナレバトテ辞スルニヨリ  
千坂氏ヲ引ヒテ水直橋ヨリ湯島切通ヘ出

上野ハト遊歩セリ行行々余ハ彼ノテ遊歩  
ツケ彼ノ將來、目的ヲ伺フニ彼ハ醫學ヲ  
修ムト云フ余ハ彼ノ考考トハバキ種  
々ノ遊歩ヲ得意ニナリテテテソカレニ彼レモ  
大ニ喜ビ一身ノ現況ヨリ未來ノトマデモ  
マクト打テテテ深ク余ヲ信シ又余ヲ  
頼ムカ如キ有様ナリ。4叔氏ノ兄弟已  
テ七人ナリ男子ナリ長男ハヨク、馬鹿者  
ニテ論スルニ是ラス次男知ニハ海軍  
少尉ナルガ天保錢ノ仲間ヲ與ヘス  
三男即チヨニ記載スル譯三郎ハ是  
州トモ文學博士ニナリテ大著作ヲサ  
シ云フ其決心其豫想中々感心スル  
ニ餘リアリ何サニ彼ハ兄弟中ニテノ出  
來者トシテ思ハルナリ。上野ニテ明  
月ノ愛シク面白ク遊歩スルハ大凡一町  
百餘丈ヨリ上野公園内ヲジルト  
廻リテ忍地巴ヨリ歸途ニ我キ咖啡  
茶館ニ至リテコーヒーヲ飲ムナリ又々  
遊歩ヲツケシカトハニ近キ頃ヨリ  
去リテ袂ヲ分ケ余ハ湯島ノ天次ヲ通  
リ又ケテ切通ニ出テヤララビールノ

スタッフヲキメ込ミタリ支レヨリ心ヲ清涼  
元氣効々爽快愉快月ヲ眺メ星ヲ望ミ  
スタッフヲ振り廻ハシナガラ家ニ帰レリ。  
余ハ今日ハ笑ニ清浄ナル樂ヲナセタリ。  
佐間ノ塵埃中ニテ鯨飲馬食スルハ  
愉快ナリト云甚ク不浄ナリ。一時乃明月  
ノ下ニ在テ学理ヲ考シ三腕ノ咖啡ヲ  
喫シテ世ヲ洗フ語ルハ豈又ク清浄純  
潔ナラズヤ。惜シクハ余今夜ハ  
オルカシヲ月下ニ弄セザリシコトヲ。寧  
ニ泣キテ日記ヲ此ニ學理ヲシラベ。  
十二時欣然トシテ寢ニ就ク、今夜  
ハ此度面白イ夢ヲ見ルゾ。

九月一巳 (水)

午時申五時り初覚し存れハ外出セヌ  
 河島城ト定ノ嵩セタル敵ツ今ハ今カ  
 ト兵糧ヲツコヒテ。手ズス子ヲテ待ツト  
 モ知ラス。ソツクト先陣ヲ打テ襲ヒ来  
 リタルハ中原定衛芝生ナリ。余ハサレ  
 ヒルマズ渡リ合フ折ニモ山田鉄砲ハ門  
 外ヨリ伊東將軍見余セント呼ハツハ  
 三寸子燗、大先ヲ打テ振ワテ切ツテ  
 カル余ハ精神益々加ハツテ二人高  
 ト戦フ内田中、中山ノ両勇勢ヒ猛ク  
 躍リ入ル間モナク間道ヨリ突如ト襲  
 ヒ来ルハコレレ岡村純義氏ナリ。如  
 ノ先戦ハ山田ト中原ノ女ヲ流シナリ。  
 貴操ハ女房ヲ持タルソダガ子ヲコシ  
 ラヘル手續リダローナト山田ノ向ヘハ  
 中原ハ笑ヒモセズ、ナニ只夜ノ聲ニ  
 スル丈ケサ、...ダガ何トナク當分表マ  
 レイオーダゼ、...併し有ツア見ルト世  
 後ニナツテ困ル、...ナント強ル内ヲ強  
 ク在強ハ婦人科及田外科ノ外来  
 患施ヒ義才女多クアリトコトツ義女

幕の内診シトカ、見タカ、大タツギノ後シ  
トナル中尾山田ヨリテラカハ一妻シテ集  
術的トナリ再ヒ下落シテ下ノ後シトナリ  
致シ九時半ニ及ビテ一全退者ナシ。  
同村ハ今夜心シオルガコトノ知必決  
テ余ニ聞カセタコト彼ハ此等コトノ区  
区ニ達セリ、中々余ナドガ真実ホコ立ヤ  
ナフテ亦ヒ疑フタレテモ反ブコトデナレ、  
世ノ中ハズンズレト進歩スルナリ余打  
リハ進歩スル才氣ニ思ハレテドーモ  
悲シウコザル理。十時ヨク見ト其  
等々ニ出カケ朝田ビールニヤト生  
卵四ツヲ食ヒテ酒進シテリ余中  
又ニフバカニヘ上リテニ会ノ酒ヲ  
何杯ニテ飲メバ酔ト氣味ニナクテ夢ニ  
ノリテシテシ

十月二日(木)

午後五時帰宅入正午長差印来  
リ余ハ往ニ就テ通達等死へ  
出テ了後暫ク休息中ヨリ働  
ク人同ク。略時休息後夕食  
終バ已ニ日暮ナリ余ハ今日ヨリ大ニ  
勉強セシメテ心ニ誓ヒケリ何トナレバ  
余ハ他日専らトシテ名ヲ揚ケテ思ヒ  
実業家トシテ養フ得テ男ヲナレバ  
更ニハ勉強ガ第一ト云フヲ深ク  
感シタレバナリ。ソコデ余ハ明日ヨリハ  
ピレピレト勉強シテ余ノ健康ヲ損  
害スルヲモリナリ。因テ勉強ヲ肺病  
ナリノ男病ニナルナドハ全ク慢スベキモ  
アラズ余ハ日、土、両日ハ更ニ略  
ク保養シテ他日ハ更ニ之ヲ休  
役セシメテ思フナリ。余ノコノ決心ハ中  
々容易ニアラス。往ノ年々ノモガ偶然  
思ヒ立ケルトハサトテ尺ガ違フコトナリ  
余ハ自ラ第ニ其カズ余ハ勤勞ノ人トシテ  
ナリ思フ余ハ清澤人トシテ思フ  
ナリ余ハ余ハコノ余ハ今決シテ法



モ云ハ子バウツモルカ又ナリ。

日暮同村就寝ス向ヒテバンドオルガ  
ヲ器ヒラケラ大鼓刻ニシテ彼ノ鼓ニ  
ハ通リニテニミノ買物ス同ヘ務  
メシテビールヲ飲ミテ思ヒニガ徒  
解ニ至リテハ知テニ美アリト思ヒテ  
ス制シハ八時半御燈直ヤニ華記ナリ  
カワ直ヤニ十一時迄キニ至ル即ヤ  
日見ラツケテ十二時迄ニ改テ就  
リ。

(西午長先即東心)

十月三日(金)

十一月三日ナラズ長節デ休日云フヲナ  
レ年日ハ十月三日故何デモナシハ時  
聖授五時迄辰野博士ノハケ介  
リ月日體ノシボツヘラシテ家ニリル(リヨ  
ガヤ山崎ヲ訪ヒ下子氏ニ逢ヘリ)リヨ  
レハ那珂麴子、今氣毒一節ノ兩芝生  
新居シ候レツソマヲ又新居ノ後(コノ  
新居中那珂ノ銀田町ニテ曲者ノ道ヒ  
シ曲者ハ牛ノ洲、投身シ候シアルヲ  
強リ尽カヌカナルコト一内ノ要金ニ外  
レハルコト口惜ガツテ云ヒツ)西人リル  
引キ換テ入リ暮シハ山田金死氏、  
村井ノオナリ。新居ノ後裏酒ノ節  
シ酒ノ名山田ハ二十四孝ヲウナリ  
タル声ト云ヒ節ト云ヒイヤモ一  
感心仕ル。コソヤ何山田、ソタモ只  
ニ二十四孝斗リデモアルマイ、先代教  
ホ一興ヤ、ドーダヤ、ドーダヤ。ハイ、ハイ  
イヤコウルサクイ注文下カリマシタト云ヒ  
一段新声ヲ張リ上ゲテ牙ヘニ牙ヘ  
タル黒人声:

ナントモ無イト洗面作り、涙ハ出レド切氣  
シ、ホソラツサガセ一盃、コヤ酒ヲハセ  
リト”

越路ヲ氣取ル音律ノ弄ル身ニミ瀧リ  
思ハズモ恐境致シタノ一村井。イカサ声  
トヌヒ節ト云ヒイモ一中ノ感心仕ル、仲  
ナニ山田君、酒モ定メテサメテアロー、拙者  
ノ酌デモ一一杯、サド一デゲス。……

余ハ山田ノ弄大丈ヲ固キテ余等野面白  
ク密シクハ時山田廻ル。余等三人ハ此  
ノ教舎ニ出カテアテモツキム。圓リヨ  
下氣ニ出テ湯島ヨリヅルリト廻リテ物々  
セシ里路凡ツ一里ハ町ツノるハ全ノ東  
沢喜見、平田如父ノ昆彦、家父ノ  
昆彦、大臣安次一昆彦等中ノ一棟  
概テツシナリ。途中ニテハ割ニビニ  
牛肉等ヲ謀殺モツキ無クニ九時五  
分ヲ電シ足ト申ハ直ヤト露ニ付テ余  
ハ日死スルシ難時休息シテ十  
時登リ此キヨリ。

十月四日(土)

昨夜家内一泊今朝七時起キ登壇  
又十二時帰宅昼飯ヲ終リ家内  
共ニ外池田春柳亭有田守 鹿部守  
赴ク今日池田、淫雨ニテ人心モ至テソ  
勝ナリ余モ持井モ一向ニ心進マ又ガ  
ラモ車ヲ俵ヒテ春柳亭ニ至リヤ、待ツル  
候ハシテ事ナル者凡テ三十二名午  
二時御事ニ取リカ、ル皆坂梯我氏  
我長席ニ就キ服本 銘松氏 類明  
貴ノ席ニ就ク我子ハ有田守 瑞守、手  
我ハルモ我弟百出尽ル所ヲ文知ラマ  
シ我弟モ名簿卓ニ置テハク何レニ  
テ塔ノ明クテラ喋々又覆スルニ局外ヨリ  
内ノ實ハ片腹痛キコトハ多カリ其中ニ我  
服本氏ノ我弟ハ尤モ通切ト思ハル山崎ハ  
辨口ニテモタコトハ芥沢ハ購義主義ヲ取リ  
我ハ破壤主義ニシテ小林ハ保守主義ナリ  
下平氏ハ痛快ニシテ浅見氏ハ人意未  
出ツル奇理ヲ云フ人ニシテ浅野氏ハ大  
人ニ過キルリンナラ内貴殿 忠左親ノ  
至親ハト内ハタラ余ハ 禮ヲ正シテ我

ハント名ス。余、至哉ハ中立主義ナリ余ハ  
虚心平氣ニテ衆議ヲ接取シ其尤モ可ナ  
ルモノヲ取ル然レモ余ハ別ニ定見ナキニ  
非ス余ハ實ニ一箇ノ議論アルナリ。然ル  
ニ山崎ノ如キハ声ニ應ジテ論ヲ吐ク能  
アルモ余ハ懸考シテ然ル後論ヲ吐クノ  
能アリ。故ニ通常ノ人ハ余ヲ以テ無主  
義無意見ノ人ト思フモ矢レ又ナリ。余ハ  
規則編纂ノ委員ヲ撰ビタルニ小村、  
服部、芥田、森、山崎、余、浅沼等  
撰マルタルガ、其ノ人物ノ優劣ヲ代  
表スルモノニ非ス、又實カ高低ヲテ  
ラスニモアラス、今日ノ席上ニテ誰カモ  
シバリタル乎ヲ表ハスモノニ過キサルナリ。  
尚ク若シモルトケ氏ハ議院ニ既ニシテ  
第ニ黙シテ。若シ黙スルヲ辨スルヲ以  
テソノ人ノカヲ知ルトセバ、アコソレ變テ  
ナルモノガ上流ノ地位ヲ占ムトス。余  
ハ只服部氏ノ立論、正シキト芥田氏ノ  
世才ニ長シト山崎氏ノ辨論ト森氏  
ノ胆カト小村氏ノ勇氣トニ感心セシレ  
リ結果ヨリテ五時迄キ一問起ル

日暮後村之人归宅一醉令上酒=  
ソバヲ命シ且ツ飲ムコトヲ其中心ニ  
身大志心志トテ二十四歩及ニ先テ其  
部ツケル余ニ酒ノ氣ニカセテ三十二巻ヲ  
ヘテ其ノ調子ヲ歌ヒテ

「乃」身上ニセシ仕事ガゴザル、一ニ字偶  
ニニ有る者、三ニ酒盛ニ四ニ試験ニ  
用意、用意、同意ト---ト---  
但志志結助ニ似テハ見テスニ余ハ結  
謝ル心欲セテ後ニ助カ余ニ似テ欲ス  
ナリ其トシテマズヤラカ、一々早大一座  
ノ大酒ニ、イコカ酔気ヲ僅クシテ  
好意ニシテ

結  
助  
ノ  
心  
算

十月五日(日)

今日モ霧籠ノ大雨ニテ氣昏陶タリ八時ト起  
キ出テ亭保ヲカシテバ梅又彈込ドシカコシ  
スル内早正午ニナリタリ今日ハ鈴木ノ家ニテ津子  
度ノ路ハ新ク同カル牛度ノ間早目トシテ景  
色ヲ深ク為シ是れニ行キテ久ハベトテ鈴木:

忠厚立テレニ時頃ヨク出テトスル系ハ小定  
千比良芝生ノト入テ来リ互ニ施リ中ノ物  
後リヲナス一時間ニシテ小定ノ人ハフルヨリ  
津子ハト志ツシ上野ヨリ人カテ直ニ鈴木  
ノ度ヘ至リ見ルニ家ハ秋アツテ新築ボケル  
奇麗ニ間口割ハ大ナル所ニテ林哉思ハス  
余等ハコレヲ津草ヘ移テスル毎ニ錢ノ有  
無ニ関セヌコトニ警ツテ酒食ニ飽シテ得ル  
便ヲ得ルニハ心中大ニ喜ビタリ店ニ配人ハ  
鈴木ノ者頭佐々木ト云フ男飯タキハ鈴木ノ  
僕某下女ハ鈴木下女ノ外ニ人アリ鈴木ノ  
下女ハ物ナシテ大声ニ叫ビテハ通スコト出来  
ズ帳場ニテハニヤコソ下女カ妙テコナル声ヲ  
強クヒゲテ叫ブヲ解セズ大イマコソツコ子  
中々面白シ一升四合ノ酒ニ牛鳥悉ク  
肉ヲ飽食シタル間ヲ過シテ是レハ

生徒は皆膝行をたがふ下す(一)ハル点ヲ附ス件  
理由の有無を以テ見ハ無シ云ヒオハ有リ云フ  
余ハ有リト云フ者ハ賛成セシガ實ハオハヨク分  
ラヌナリ三人ハ可ナク酔ヒテ催シ飲水ヲ出テ  
タル見ハおろそかニハヌクト行ク故余トオハ  
ハ怪シク踏ミ違フニ更ニツル影ヲ見ズ諸ハ芝  
キヘヨリタルヲラレト思ヒオト共ニ人カヲ飛  
シテ家ノ内ヲ見テヨク又ヒールヲトリヨセ  
ナドシテマス(酔テ催シタリ余ハ其亦自疑  
シ更ニ平日ニ異ナラシモ金銀ニ對シテ欠  
満面先ヨリモ喜ナルニハ一獲ヲ喫シタリ九  
時三十分ノ癡ニ就ク見ハ申ニ時々云リヨ電  
ス後ニテ聞ケバ見ハ飲水ヲ出テ、跛傷ニ  
野盡ヲトラカセシ間ニ余等ノ見失ヒおろそか  
ナルモツマラヌト思ヒテ浅草ヘ戻リテオハ  
肥店ニテ又々飲ミタリ云フ



十月六日 (月)

一昨日ヨリ大雨今日モイダ晴スズ淫雨ナリ  
一昨日ハ午前五時高ト云フ早朝ニイツツテ  
冷評シテ置イ張子一虎ト云フ格、白不虎次  
郎先生ヨクト頭ノ前、方ハツ出テ入り来レリ  
先生ハ昨午白不家へ婿養子ニ入り込シテ直  
チ一子ヲ養ゲレハ病身ノカウダレ似合ハヌ矣  
シタウ手柄、ソノセイカ肉モズツ癩セテ骨ト  
皮トシテ云フ格、見ル目モイトバ不憫ナリケル  
先生ハ昨日上京ニ来次ナリ家ニ立ケヨリテ父  
母ヨリ余等ヘツカツサレ、新汁松茸、受取  
ルヲ今朝持来シ置レタルナリ八時ウレ番同  
先生ヨリ余ハ大雨ヲ死シテ登校シ四時半  
帰宅シテ見レバ、足ハ窪コビオハドテラニツマ  
リテ四度路ノ休ナリ丈レヨリオ足シテ松茸ノ  
料理ヲ娘ニ附属トシテ茄子、汁モ肉、麩ト  
ドウ取ッ寄セ酒一升ニ会テ化ケタルニオヨ  
ク肉材遣次郎氏事ヲ明日始メヘ归入ト  
云フ固テ共ニ盃ヲヤクトリシ松茸ノ夢祝  
シテ余等ノト彼レガ一身後長ノトナド  
ヨリ強強シタルガ今ハ一昨ヨリ、後ヨリ  
リ余等ハ丈レ功ヲ示シク酒ヲ用ケル

身ハ雨天ナレバツテ今夜モヨハ一泊スルニトセ  
リ後ハ實ニソノキナル者ナリ三日ノ事ヲモ為ラ  
ズテ堂ニク送りタルコトハ。彼ノ専攻ノ科業  
ナキコト實ニ驚クベシツノ専攻ノ業ヲ専ル  
モ何程ノコトアルベキ。身ハ専オアルガ爲メ斯ク  
學々トシテ充陰ノ医ニモ左マデ善ナキナルモ  
又左マデ利益ヲ得ルヲ欲ハザルナリ。尙ニ合フ  
カト云フテ丁ニ尙ニ合フ丈ノ仕事ヲスルハ自  
己シテアナルト云フモ、何ゾ一歩進メテ餘  
積ナル時ヲ有ラシテ己ノ志ヲ修メザル措  
ムベシ。是ハ餘程醜陋ニ大ニ大  
支ラウナル身モ興ニ來シテサレクナル、身ハ  
声ノ性強惡カラ子ドモ屍ノ穴ガワマツト云フ  
風ノ声ヲサシモ河ヘタル町ナシ故ニ聞ヒタハ  
至極面白ラス、是ノ声ハ又來タカガ耳シク  
子ハ矢張り面白ラス、山田鉦丸ノ此ノ声  
ハ花ノカク河ヘテ面白ク聞ユ。彼ハ一種漢  
音ヲ有セリ。是ハウツ瘧シテ十時後ニ至テ  
余ハ原野ヲ踏歩ス草ニ日犯ラフケナドシ  
カモ醉ハズ、酒ヲグヒト飲ミ盡シ休  
息ノ後十一時後ニ到リ余ハ醉ハ又瘧ニ完  
醉スルニ云フ好ナ瘧アリ困ラケハモノナリ可々。

十月七日(火)

例ノ如ク朝露、後を接四時リ何  
ハ見イ、兄ノ白乳、張子ノ虎ト加東、  
唐徳馬鹿ト三人ニアホコルトエテ流  
モナヤルバ用モナ、酒白モナイガリヨリ  
レモナ。何か坐ガ白ヤ皆ナガモザ(シラ  
居ニ風情ナ)。加東ハ明日(式路モスレ  
レバ)帰郷スルトテ日陰ヒダカ、酒ニア  
リ付キタサニカ、用事承リシタカ、まハナリ  
見ハ余ノ月ルノ欠テ直ヤニ外出セシト云、余  
モ元來酒宴ヲ好ソバ異我ナリ海ニ表ニ  
其ニ博草ニ到リテ飲木、牛鹿ニ入リテ酒  
肉ヲ食ホリ。酒而甘ニシテ加東ハ世辭ト  
モツカズ自惚トモツカヌリタラヌ出タラヌ  
語リシモ可笑シ兄ガ大ニ醉ヒテ管巻、  
モ笑止ナリシ。上野ニテ月夜車ヲ命コシヨ  
加東ハ表ニヨリ余等三人ハ切通ヨ  
リ畑道ニ訖キ途中ビニ、ステトヲキ  
込ハ大曝ニ車ニシテ余ハ心來爽清  
トナリシ見ハ却テ乱狂ヒモハ如ク酒意  
ノ高主ト下ヲ又吃ラシ末、虎用キ廣ク  
ナリ巴ガ縁ヲ夏ヒテ三四十枚引フダハ

穿投博和舎へ配達し候に程は明日モ  
ツ引キツタ余、家へ届テヨナドアツガ  
モガテノコトヲ一生懸命ニ強リケル。向底ヲ去  
リ申、仰四丁目ニ来ル片見ハ嘉楽亭ト云ノ  
ト料理店ニ入ラントマル故余ト白死  
ハセテ止し、一向向中入レテ、改幕  
リヨラバ、笑キハ歸シ余ヲ飲コフ行テベ  
キゾトテ中ニ向カスヒカニユル手ヲフホ  
ドキアマツルコト料理店ニカケテダリ。ス  
ハ一大事、何レテナ事ハ為スマジト思ヒ  
余等ハ己ウ得テ後キテ内ニ入りタリ。  
見ハ大醉ノ体ニ酌女ノ一寸管ニ中ニ  
戯ルレカリ。抱キツクテ、手ヲ引コフ張ル  
テラ。膝ヘヒガニ付ケテ。顔ヘ顔ヲコス  
リ付ケルヤリ。甘クキテ吐キカケ。ソカ  
リテ妻ノ立テルニズ。女ハ心中ニヒツコキ人  
哉ト思ヒシモ尚賣柄トテワレナクモ云ハレ  
ス。迷惑白ニ見テダノ長ケルガ後ニタマ  
ズシテ逃ゲ去レリ。見ノ女ニヒツコキハ今更  
珍ラシモアラテドモサリトハ人ノ見ノ目モ  
宜カラズ事ナリ。余ノセルキハ(又女ニマツカ)  
冷淡ノ操テ情深ク。情深キ操テシテ

冷流ノ様デ。或ハ時ハ女見ヲ脳殺シ或  
ル中ハ女見ニ脳殺セラル。ソレデハ五分五分  
計。ハ。一何ノ事ガ。ヤ併シ余ハ兄  
余リ輕々ト之驚ツタ。兄ハ先木ハ妙義理  
立テテ。遠キテ厭ハシ浅草ヘ行ク。休ハ日ノ  
牛肉ノ食ハルヲ望國石。オ一ト必シテ飲  
木ヘ行ケバ先方ニテモ余ヲ教スヘソ余モ休  
ト親睦ノ道ヲ同シタト。嗚呼何ツマシ見  
儀ノ卑ナルヤ。ソノ卑ナル可ハ全ノ酒ノカ  
ノ悲ハルベシ。余ハ先リ何リニ多ク  
解ラズシ又動カ。食ハレテ一ト  
半程ニ付ク。ア。今日ハ一頁モセズシ  
テ日ヲ更ニス。悠哉。

十月八日 (水)

例、女中、登校五時帰宅、レオの予備室に  
ベル内日暮し、今日ハ見モノ在ナリ、ナリ  
テ淋シキマニ、言ひ出テ、フジノト、睡タス  
ミ、ワテ、お母ニ逢ヒ、ミナケ、ワテ、後  
内供、矢島、ワテ、ミ、四年、以、吾、余、等、カ、酒  
ヲ、景、飲、セ、シ、ト、白、鹿、酒、ヲ、買、ヒ、行、キ、ト、ク  
微、行、ト、称、シ、下、等、ノ、飲、食、板、ニ、立、入、リ、レ  
ト、ナ、ド、ウ、笑、ヒ、ナ、ガ、ラ、流、シ、一、時、ヲ、奉、レ、後  
余、ハ、二、人、ヲ、伴、ヒ、テ、カ、川、ノ、ハ、新、宮、ニ、出、テ、ケ  
松、崎、亭、ト、名、ノ、西、洋、料、理、店、ニ、入、リ、タ、リ、余  
カ、三、年、前、ニ、来、リ、シ、ヨ、リ、ヒ、ス、レ、ハ、大、に、喜、ハ、テ  
マ、ケ、レ、セ、ビ、レ、ト、ス、ル、存、懐、ナ、ク、若、シ、ハ、小、奇、シ、ナル  
下、女、ア、ル、モ、今、ハ、髪、ノ、毛、ヲ、ツ、リ、先、シ、垢、ヲ、キ、ル  
木、綿、ヲ、着、タル、一、下、女、ア、ル、ニ、案、ハ、一、人、モ、ナ、ク  
ヲ、甚、ク、驚、愕、タル、ニ、モ、以、テ、電、気、火、燈、ヲ、用、キ、シ、笑、  
キ、タル、ト、ナ、ク、洋、食、ヲ、饗、リ、テ、余、ハ、二、人、ニ、テ、カ、レ  
車、ヲ、罷、リ、テ、家、ニ、歸、リ、予、備、室、ニ、シ、ラ、ベ、テ、十、一、時  
至、ル、ト、ナ、ク、

十月九日(金)

例ノ如ク五時帰宅シ休息ノ後夕飯  
ヲ終リ三時以上ニ延ビタル鬚ヲスラシ  
テ出カケタリヨルト内儀矢島西自人  
揃ヒテ押しカケ敷リタリ余ハ柔葉ヲ供シ  
ハ供ノ為ニ習ヒ又ヲ校正シ又ハ沢田君  
授スハニ早ハ八時半ニナリタリ内儀ハ終ク  
矢島ト共ニ帰宅ス深井三郎ナルモ来  
リテ色々身上ノ洗ヒラシ單靴一対ニ  
テ襪々ハ出アルコト不都合ナシ袷衣  
ノ旧キモノヲ備シシト云フ余ハ持テア  
セナキ故当分コレヲ夜ヲテ踏入リ御  
一対ヲ与ヘタリナキ御禮ノ後徘徊大  
勇ニテ十時ヨル余ハ單行ニテ清書ニ  
十二時後ニ就ク深井ハ実ニ仕合セ  
モナリ余ノ女ノ寛仁大匠ニテ且  
懐ニ深キ救主ヲ有スルハ可々

十月十日 (金)

例、如ク五時帰宅シタルカド花籠ノ  
睡眠時至シト欠ヘテ腹工全、要十  
ト甚シ固テ夕食ノ後サレテ筆記ストリ  
テアリテモナク教書ニ出カケル今日ハ  
天球ノ審日ニテ往來甚クニギヤカクイ何カ  
一孟トイハ(考フルニ第一今日用度ノ  
ビールヤニテ十三圓錢ヲ費ストテ第二ハ  
牛肉店ニテ十五圓錢ヲ費ストテ第三ハ  
湯島ノ西<sup>洋</sup>料理店ニテ二十圓(料理  
ニテ酒ニ合)ヲ費ストテ第四ハ、魚長ニテ  
四十五圓ヲ費ストテトナリマシ研究スル  
魚長ハ高ギル西<sup>洋</sup>料理ハヨケテモ二十圓  
以上デハイヤスビールハウマシ興味ガ  
イヨク牛店ト違マシ、豊田カ江知勝カ  
平野カ、イロバカト考フルニ豊田カモロシ  
即チ我トシテ酒ニ合内ニ人ヲ五圓合  
計十五圓カカテテ費ヒテ微酔トシ更ニ報  
及テ起シテビール屋ヘ入リニお井十圓即  
来リ居リ、酒ヲ飲シテガ飲ムモノニ大  
塚ニ本ヲ化スルカバ、何ゾ堪ランナ  
忽チ二十八圓ト云フ巨額ニ達シ大ニ閉



ロシは、醜陋にして、家ニヨロキヲリテ  
ソ、マ、瘡カレガ、夜半ニ及ヒテ、急、病共  
レナリヌ、起キ上ルト、スグニ嘔吐ス、催  
フニ、腹中ノモノ、コラズ、又吐ニシテ、出し尽  
シヌ、ソノ心地、ワルキヲ、吾代未聞ナリ、我  
明ケテ見レバ、コレ、牛肉ニシテ、サシモ、消化  
セズニテ、アケルナリ。嗚呼、酒ノ害ハ  
恐ロシイ哉、今更ニ知ツ、ワデ、ハナケレト  
余ガ、胃ノ弱ク、ナリ、ヤ、モスレバ、吐キ下ヌ  
ハ、必、畢酒ノ、カト云、ハ、サル、ハ、カラス、恐ロシ  
哉。余、悉ク、今ヨリ、淫蕩セズ、レ、ハ、終ニ  
一身ノ、健康ヲ、失ヒ、大事業ヲ、ナス、能ハ、ザ  
ルニ、至ラン、桑原、藥原、アーン、ン。

十月十一日(土)

朝起テ出テ見ハ頭痛頓ニシテ連モ登  
校ハ出来ス餘程ナク幸日ノ課業ヲ休メ  
トダラヲ寝テ打テ卧シテガウガリヲ録メ  
ノコトヲ考フレバ見ノ為ニアト見ユルコト  
奇妙ナリ秋郊ヲ考フレバ戰場ノ原ト  
デモ云フベキ一里ニモ餘ル平原見ユル  
リ一條ノ小路ハコレハ蛇ノ如ク愛ナク  
面ハ峻山高岳羨シクナラビ路傍ニハ  
菊、萩、授ナド黄キ紅キ白キ録ナルナガサ  
錦ヲ織レルカ如シ又左右ニハ表アリテ木  
葉ノ色ハ深紅モアルバカクモアリ何トモ云  
又景色ナルツ郊ノ中央ニ余ハ羨シキハ字聲  
ヲヒリ黒中高帽子ノ襦袢裝束トデモフベキ  
コレハ霜降リ背廣ニタテ縮ノズボン履ニゴラ  
ンデー(一合ニ十歩以上)ヲ走シタルニルドフラペロ  
ヲカケ手ニ握リ杖ヲモテリ余ノ傍ナルハ余ノ  
最愛ノ妻ニシテ此ノ装束ナル洋服ヲツケ頭ハ  
割合ニ上着ナル帽ヲ冠ルツ服ニ居ルニ人ノ  
小見ハ余ノ最愛ノ子ニシテ長女ハ年六ツニ上  
上品ナル洋服ヲツケ髪ハフリ亂シ頭ハ考フツノ帽  
ヲ戴テ弟ハ年四ツニテ女弟ニ手ヲヒカテ歩シヌ

弟ハ花ヲ見付ケテ、アレトツテ、ト叫ブ、娘ハ甲斐  
ムシク草ヲ分ケテ、野菊ノ花ヲ多クツク  
母モモスリヲカゲテ、花ヲトリツク胸ニ夾ミツ  
余ハ「ランデー」ヲ飲ミ、微笑シテ、衆ニジニオ  
ケ見ルニ、弟ハ花ヲモケ来リテ、父サマニ「マイラセ」  
ト云フ、ソノ段、氏ヲ余ガアル田舎、別荘  
ヲ出テ、近キアタリノ野ニ遊ビニ出テクルナリ  
半里餘リ行ケバ、表ノ中ニ Gothic style  
ノ小カク美シク富シクアリコレハ余、別荘ナリ  
余ハ家ノ中ニ入リテ直ニ食堂ヘ赴ケバ、心  
キカク侍女ハ已ニ料理ヲ作リテ、テーブルニ  
布ヲカケ、洗花ナドノ用意イフモ、女ニシテ待  
尻ナリ、余ハ「ジャンパン」ヲ脱キケ、親子四人  
ニテ食事シタルハ中ニ愉快ナリシナリコレハ  
今ヨリ十餘年ノ後ナルベシト思ハル、オヤ  
正午ヨク家ヲ出テ乗テ路東アルヲ以テ新元  
坊内ナル園手、遊子遊見物ニ赴ケリ、然レニ  
新元園ニシテ見セリ、シテ謝絶セテ、大由  
口シテ一同登シタル内、余ハ「お世名井」山下  
シト、其ニ「管岩山」ノ對岸スレ、中ニ「隠カ  
シ」内ニ「久レツ」ニテ、コレヲ見ルニ、好余  
ハ「笑」ハ「笑」見ヘシナリ、終ニ「高」

登りて東京市街を見下せり。海面は凡そ  
二十五間にシテ、陸岸ノ山々、津草、高塚ニコソイ  
ヨリ赤坂は町一軒ノ内ニ集マシ又余ハカハ高  
キ塚ニ(場所ニ)登リテ大好キハ夢中ニシ  
テ面白ガリ又塚ヲ下リ山下ニヤシ三人ニテ田  
田ヘトリハ途中ヲ遊トナシ、午後四時ニテ  
評シ合ヒタリ、小雨ホツト降リソコ  
人カニ集リ余ハ知達ニ電氣上ノコトヲ内ニ  
テ大ニ語ル所アリタリ。日暮、足ハ赤坂ヘ行  
ク余ハ家に在リテ茶ヲ飲シ菓子ヲ喫  
シ、唯志ヲ尋ル草ヲドシ(美事ヲ論)十  
ニ時ヲ過キテ夜ニ就クニ茶ノ為ニヤ中ニ寤  
ラズニ時ノ鐘ヲ聞キ三時ノ鐘ヲ聞キテ  
ヨ一ヤク外ト睡リタリ。昨日上等ノ菓子  
菓子(孫柄)ヲホテテ室ノ一カニ置キタ  
ル所ノ室内、エ合甚クヨク清潔モ亦一儼ニ  
来リリ唱呼イ一心モヤナシ、室内ニ汗シ、  
衣服モ汗トセテトヲ受ケテ、靴モ新調セ  
リ、氣候ハコトヘラシ又陸ノ上々也、余ハ  
此後ニ無ク安心ニテ勇氣効ケルカ

十月十二日(日)

今日ハ昨日ニモマサリテ寒カラス熱カラス  
骨ノ中ノ肉ヲスキ透ス様ニ臨身ソクトシテ  
居テモ立テモ居ラレヌト云フ……イヤ早コハ  
ソツソナ形容ダガ……イハ心モタコソナイ  
心モサハ世界ニ又トアルマシ、余ハ欣然トシテ  
机ノ向ヒ原居ヲ過カシツク休息シテ、夜ニ  
半日モ潰シ寝リヌ、兄ハ午近クテ起キ出  
テタルガ何レモ安カシテ精沛洗用ノ格  
ナリ。一時余ハ家ヲ出テ、山崎鉄砲ノ内  
ヒラ者ノ亭上ノ了務ヲおこなシニ時、夜ヲ  
食ニ至リテ一寸休息シ、夫レヨリ例ノ小供  
暮ヲ汚カシテ供ト干城ハ外出シテ矢島ハ時  
ヲ午隣セリ、彼ハ今日浅草ノパノヲマシ見  
タシト云フ故、余ハ彼レヲ案内セシテ三  
時家ヲ出テ、荒ッ上野ヲ散チスルニカヘリ  
嘆キ、梅甚ク多ク風景モ春ノキテ遊宴  
袖ヲワラ子タリ、余ハ官舎ノ上ニ行キテ  
風景ヲ愛シ、吏レヨリ浅草ヘ赴キ、パノヲ  
マシ見タリニ、吾目ナカラツク面目ナコト、當日  
モ増シ、又矢島モ無暗ニ嬖シカシテ、晝ビ  
タリ公園中ヲ散チシ花ヲキニシタリ

矢島ハ蓄音器ヲ聞キテ大ニ嬉シク今日位  
ニ面白ク目ヲ見タコトナシテ無キニ毒ビ余  
ハ支シヨク我書ヲ読リテ向島ヘ出カケ  
ルニコソ掃モ事ハカハツテキセリ支シ  
リ竹尾ノ後ニテ後リテ再ヒ度子ニ出ヒ  
余ハ空腹ニ堪ヘザレバ錢ニシテカカ  
鏡本ノキ旅ヘハ上リ得ス車ヲ飛ニテ土野  
ヘ来リ矢島ニ分シテ掃リ御座ニ於テ  
空腹ニテ殆ト歩行ニ難キ故ニビールヲ  
トシテ飲ミ御座ニ食ヲ食ル田中中山  
来リテ汽化興アリ足モノ内ヲルニ時  
アリ後兩表リヨレリ見ハ祭日(葉師ノ)  
ナルバ好尚ニ行カント云フ故直ニ因  
意シテ本御座ニ通ラフキ路ニ例ノ  
ビール瓶ニ入りタル竹村一往ト云フ  
臣御座ニ辱生事リ居ルニ彼レニユー  
テナクニ妙ヲ得テベロクニ酔ヒクダラ  
居レルガ其流シハ中々人ヲ笑ハセル上  
手老ナレバ代ワリ威風ニナケレバ重  
モナクヘコクベラクニ全ク御座  
主義ノ人間ナルコト熱シ  
レ。竹村ノ榮哉ニテアニダ  
籤ヲ行フニ竹村ノ同伴若使  
彼等レリカク誤リテ

沢モトク只モ一矢鱈ニ説シ程ニナニナ  
迄ナク又竹持ハ一足支ナヘリ心守等ハナ  
シ後レテリ進ニ説リ。只ク氣毒ナシハ物ノ表  
ル亭主トハ四鐘ニ五鐘ト云フ鐵ヲ引キ  
合計九錢ノ換獲ノまセニオトテ家カ  
流石ニ女子ナハ大ニ落胆ノ様子アリ眼  
中涙ヲ食フ亭主ノ方見ナリ。…サン  
鐵ヲトカヘマレヤウカト富リ鐵人ニ云ヒシ  
カ後ハ、ソナラヒナボリヲ是トケマシナ  
ト云ヒシモ裏レナク符等ハ九錢純判ヲ  
得ルヲハ大難事ナルベシ一割ノ判トス  
ルバ彼ハ九錢ノ高トナルベカラズ。然  
レ取ラテハ九錢ハ大金ナランナドト人  
ノ輕蔑スルヲ勿レ彼レモ相慮ニ芝居モ  
見ルレソハナモ食フアツマリ人ヲ見ケル  
物ニハアザガル也。 归宅直ヤレ亭ニ説ク。

十月三日(月)

今日も沈滞ナル好天気好候の矢張り  
骨の中肉の中ゴッ隠身ニ渡ル程ノ  
好都合ナリ五時帰宅ニ精神爽快  
熱外ニテ沐浴シ大ニ食慾ヲ逞フスル所  
中脘精一即食入マシハ往來遺家  
家ノ修ノト欲スル由テ余ニ余ノ高見ヲ  
述ハルニツギフ余ハ溜外ニテ三寸フラン  
ノ棒ヲ五寸ニ打テ振りテハ無イ矢ヲ張リ  
告ヲナニサテ。一十矢ヲ張リ告ヲ振  
テラ講釋ス初メタ。スルハ彼ハ魚暗ニ  
恐惶シテ余ヲ尊敬シタ。彼ハ余ニ地田  
成樹ト云フ在米國ノ友人ヨリ手紙ヲ与  
ル受角ス内書部孫ヨリト云フ膝  
力家ノレト入ツ来ツタリ余ハ余ノ跡画  
ヲ示シ余ノ跡ヨリ日記ヲ示シナドスルニ兩  
寮ハヒタスヲ余ノスバラシキ余、エラキ  
余、筆マナル余、物好きナル余ノ  
テコ妙ナル余、多クナルニ感服セ  
リ。カニ所ハ内村彦次。ウヤガ  
若クモ松茸子。ナゲ入セテるむき  
胡椒。トウナリ始メルカラ愛接致カド。



100のさうぢ)

(達次さんを。女房内政を引きつれて。  
まじし故郷立ち出づ。道も向けき  
東ふる。都の空の片不とり。下谷の町  
下流やど。取る月陰ハ之十月と。人み  
たまへどその夜も。二十丸内と聞く悲  
しさ。又の都をたどり出づるまじし  
不了箇ハアルマイガ。表しアツナラその跡  
たさぞやさぞさぞ。さぞ今頃も。幸七さん  
のあざねるまなり。色男もふちふちの。  
思へも思へせよの卵やき。のりまき、た  
まし。さつま芋。食ふて尻の出る今川  
や。今川橋も見る着る。急ぎは程  
み出れも早今川橋も見る。女房政  
が待ち尻もらんをるより。おれよ  
り下流へと急へ候。

〈たじろぬ説と吐く内。身丈々五尺  
七寸ノ六サト。元ろイソヒシ大男一人。  
幼モ両方女房持々。夜毎ノ合戦ニ雄  
雄ヲ争ヒ。五ニシギヲ削リ同志。ソツ  
ト入り来リ。金暮ガ作ラシムお寄  
ノ汁ト煮付ケラ食ヒ食ヒ食ヒ。酒ハ飲  
ム飲ムヲ流レハクモル。身ヲ降リ出ス

両ノ音。陶アニ人ハリヨリ去リ。引キツキ  
テ入ル東ノ第ノ亭主ト同コヘタル。金  
木俊勝ト云フ士族上。八字ノ聲。羨  
シ生ヘ。2才ヘタル眼光を食ラ恐ム  
ラシムノ威勢アリ。女房大事トセギ廻  
ル。腕ノ噴ヘシゴマ化シ通。昔ハ判任  
一等ヲ。唯ガ威張リシヘホ威勢。  
今ハ第屋の内亭主サン。徳右エ門ヲ  
羨取シテ。朝野ヲコノ野次。引キ  
合セテ呉レマカ。日下ニツケテ大井川。  
大井ニ可成ト云フワイヤイ。

十時半亭主归ル余ハサ。日死  
シテ十一時半度ニ死リ。今ハ一ツ  
ナサバツシガ。同エツリノ便ヲ内村氏  
ニ得テ大改表シ愛ヘタリ。内村氏  
ニ余ハ大ニ親セザルヘカス。ア  
ン——。

(六) 日四十月十

十月十四日 (六)

例、女の年格五時半帰宅、同にナク珍  
シク、白坂虎次郎デハナカツ野田大次  
ト云フ六デモナソ一ナ重物入、来リバシ  
テ洗スル者、如遣陽太郎、今泉新一郎、兩  
人入り来リテ大ニ面白キテ話シナス。今泉  
ハ先日小島憲之丞セテ言ヒシニ先生ハ工部人  
間ノ性變ラ毒ヲ知セラルル、醫ナカル由  
後リ先生ハ drawing 3 具ツク人ノ性變  
ヲ判ルルヲ得ベシ云ハルコトゾ恐レバシ  
恐レバシ。ヤガテ山崎 鉄死氏事ヲ有ル毎  
原摺ノ如ク此ニモノ事件ニ就テ注シテ  
憲等ヨウヤク去リテ山田 鉄死新案入リ来  
リ今等ハ初メテ招待ニテ國元ヨリ来  
ル者ヲ馳走セリ思ヒシナリ。ヤガテ一節  
糞ヲ略シ物トシテ一節ヲ煮付テトシ、酒  
飲ヒテ大ニ饒々シ今日ハ主客共ニ執事ニ  
甘ク饗ヘ皆然トシテ 後、神セトシテ余ハ  
イナドオレガシヲ弄スルコト好クテ夫  
リ山田ハ大ニ喜大ニ喜ウナレニ其、遊園  
場ニ似タルト一通リアラス、余等ハ  
モハヤ若ヘラシ又程ニ面白ク感シタリ

実ニ山田ノ義大夫ニ長シル実ニ  
余ハ感心スル外ナキナリ。アリ声デヨソ  
色が白クツア眼カキツバトシテ威アツテ  
極カラスト云フ風デアワクラ娘也ナリ  
大膽キヲナカカスゴロ。ナレモ声ト云  
ヤツハ中々ニ勢カラクナク居ル。未ク一ノ  
別嬪デ小町揚貴妃ト云フ代物<sup>ナリ</sup>  
カラヌケルダシ声ヲ立テクナシガベカ  
オラフ。ト叫ビナバ忽チニ愛想モ何  
モ尽キルデアロー、之ニ及シテ面想ハ飛  
ヒキト送テ行カストモ寫ノ初巻ト云フ  
風ナ声ニテモレヤコイト、アタク、ト云ヒカ  
ケルヲ聞ケバ隨分ワルクモ無カルベシ  
声ナル哉、声ナル哉、今夜山田一泊  
セリ。

十月十五日(水)?

例、女に五時帰宅、休息、後夕食、  
務、日暮り平田へ行き、佐藤に原  
籍、流書3依、頼し、支し、り、供、つ  
つ、4時、矢島モ在、宅、テ、同、茶、飲、  
談、し、始、メ、シ、余、ハ、八、時、休、止、シ、リ、ヨ、  
シ、就、中、途、中、例、ハ、ビ、ン、口、ニ、立、テ、寄、リ、テ、大、呼、  
ニ、本、ヲ、傾、キ、ツル、ニ、女、屬、ニ、キ、リ、ニ、余、ニ、テ、汝、シ、ケ、  
ア、タ、貴、大、丈、ハ、ウ、好、デ、ス、カ、? 越、路、カ、明、日、カ、  
ヲ、カ、リ、マ、ゼ、, 初、日、カ、中、将、姫、ガ、ソ、ー、デ、ス、  
越、路、ハ、ド、ー、モ、イ、声、デ、ス、子、, ド、ー、テ、ア、ン、イ、  
声、カ、出、マ、ス、カ、子、ー、, 後、ノ、即、ハ、声、ガ、ワ、ル、ク、  
ホ、フ、タ、ワ、ー、デ、ス、ガ、ド、ー、エ、ウ、モ、ン、デ、ス、カ、子、ー、  
ア、タ、芝、居、モ、ウ、好、デ、オ、ラ、フ、シ、ヤ、イ、マ、ス、カ、?  
……ア、ー、ソ、ー、デ、ス、子、ー、内、ヒ、マ、ガ、ア、リ、マ、ス、マ、イ、  
子、ー、……ア、タ、ノ、内、見、サ、ン、ハ、大、ソ、ー、ウ、好、デ、イ、  
テ、シ、ヤ、イ、マ、ス、子、ー、, 内、見、サ、ン、ハ、ウ、イ、ク、フ、ニ、ウ、  
ナ、リ、ナ、サ、イ、マ、ス、, ア、テ、見、マ、シ、ヤ、ウ、カ、, ニ、十、……五、  
ニ、ソ、レ、テ、ア、タ、ガ、ニ、十、……二、位、シ、ヤ、ア、リ、マ、セ、ウ、  
ア、ノ、違、ヒ、マ、シ、タ、カ、? ソ、レ、テ、ハ、ウ、イ、ク、フ、……  
ニ、十、六、……ソ、ー、デ、ス、カ、。ア、タ、モ、ウ、匠、若、様、  
デ、ス、カ、。ア、ー、エ、亭、ノ、オ、デ、イ、ラ、フ、シ、ヤ、イ、マ、ス、カ、……

ワースカ。アタノウ気風デハ法律ヤ  
内匠若孫ニハ向キマセン子オホ……  
此トゾシベリケル。余ハ微醉ノ仲ニ  
家ニリリ十一時暮ニカントスルニ兄ハ大  
ニ醉テリウケシ又々下ノ帳場ヘ行キテ  
飲シタルガ夜モイタク更ケルガ酒屋ニ  
ハ底ヲ閉ゲモ早賣ラズト云●ヒタルニ兄  
ハ又ヲ聞テ大ニ怒リ自ラ酒屋ニ至リテ是  
れトモ賣ト叫ビシニ小僧ハ兄ニ醉ヘルヲ  
見テ何カ雲口云ヒシカド兄ハ狂乱セシ  
如クニ叫リ狂ヒ戸ヲ推リ破ラントヒシキ  
ケツ銃木ノ若共制セテスレバ汝等何ゾ  
妨ゲテスルヤトテ返ヨラバ足ヲ倒サン勢  
ニ仰モ逆易シク女房ハ余ノ寝カルヲ  
ユリ起シ斯様々々ノ次第ハ甚奇ナ●  
カラ行キテ内ヲ見満下カレト云フ余ハ  
起キ出テ、酒屋ノ前ニ至ルニ兄ハシキニ  
叫リ狂ヒ、オアケヨ、アケヨ、アケズハ破リテ  
ハイルベキゾ、アノ小僧ヲナグラデハ置カビ  
ト云フニ店ノ当頭ハ冷笑ヒ、ナグラツテ  
仕方がナイジヤツマヤンカノトアシタイ長々  
リ余ハ兄ヲ捕ヘテ止メケルニ兄ハ措フナト

忽ルカ思ヘバ書ニ笑顔ヲ作リナニ小  
僧カ失笑ヲコトシテフツタカラナグロト思フ  
ノダト余ヲナゲノ又衣ノ戸ヲカキレリテ叫  
リ狂フ若シ巡査ニ欠トゲメテ表向キノ  
沙汰ニナリテハ大妻ト思ヒヨクナゲノテ  
家に連レリヨリシニ足ハ又ニ帳場ニテ何か  
管ヲ巻キケルガナニ半比ニモナラン  
寢ル風ナク併ニ翌日ハ終日寢醉ニ  
テ病人ノ如ク打テ卧シタルコソ笑止ナレ  
ソレニ付ケテモ大酒ハ止メテモラヒ友キモ  
ハコソ

十月十六日 (木)

例ノ如ク五時ヨリ晩シ休息ノ後食ヲ  
終ルニ日暮レタリ今日ハ天気清朗ニ  
テ秋景ノ精采ヲ翫ヒ字交ノ橋上ヨ  
リ四方ヲ見渡シタル暮景ニモ云ハレズ  
殊ニ富岳ハ白雪銀ノ如クツラツル  
ハ絶妙ナリ今日ハ御膳矢島甚楽ニ  
カテ兄モ夜席ニモ行カズ余モ手(ス)シ  
テ引テ待テドモ待テドモ更ニ来ラズ年  
ハ足トお造テ残リタル松茸ヲ相理ニ  
サレ酒ヲ酌シテ足沙孟ヲカサテハ  
多田徳左衛門云フ若入り来リテ酒モ  
加ハク更ニ鳥ト酒トハシテ命ニ  
歡ラ居テ酔ラ賀ヒタリ十時多田ヨリナ  
一時終レタリ



十月十七日(金)?

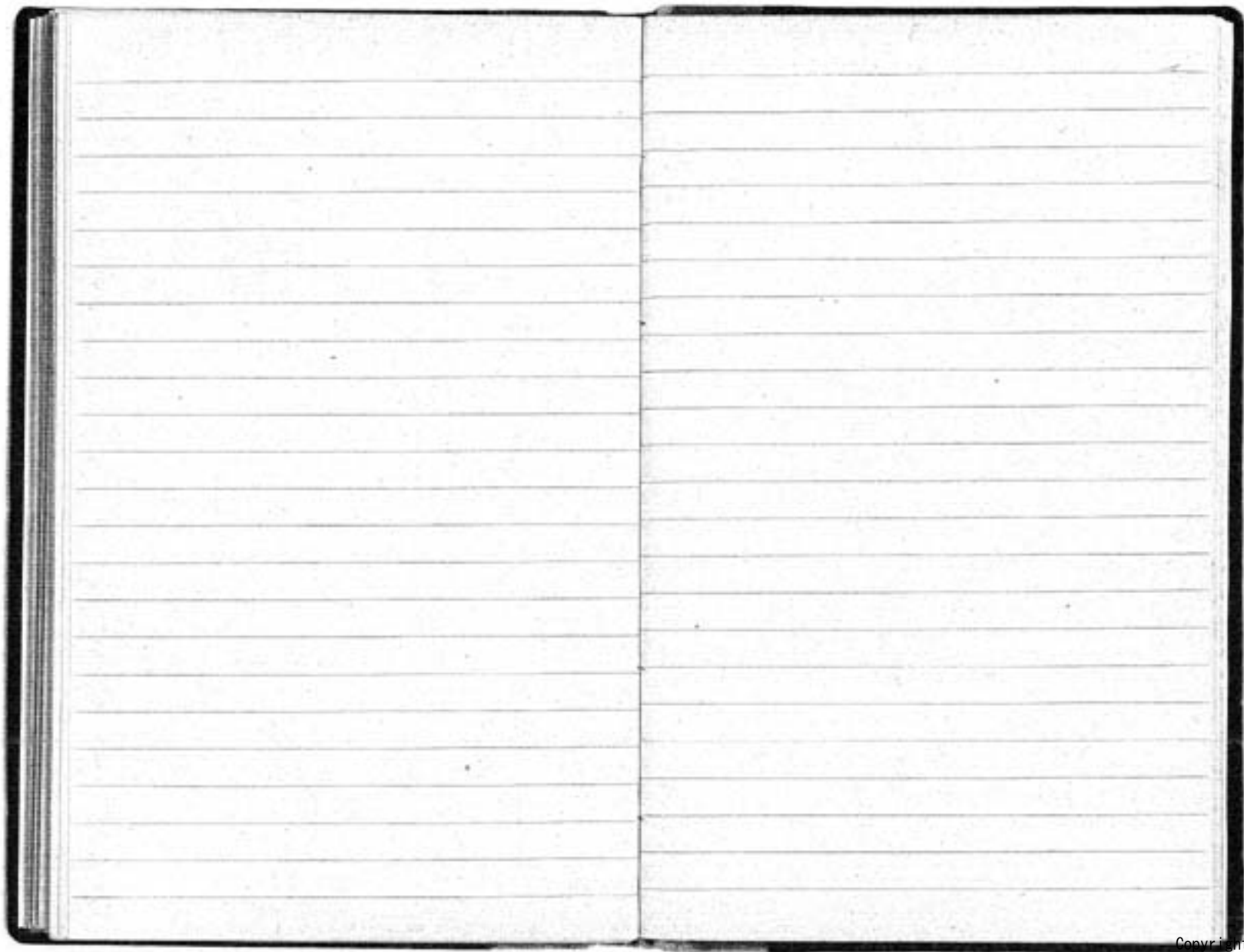
今日神楽茶+バトアハ時半ヲ睡  
夕の昼マアハ原摺材料ニ往リし午後  
二時マアハコニ往リセリニ時區キ強ク  
至リ五時マアハ矢張り材料ニ往リ  
リまじり子供セリヒマ夕食、馳走  
ケ一時的に世をうたしま余ハ  
保可ハ赴キ原摺3版ニ七時半家  
に於リケルニテ遊井ニ即来テ余  
ハ小井原死ニ言ヒ有る事ニ務  
ニ就テ抱ク事ニ大凡一時的ニテ  
家に入り半紙七面ヲ認ルル  
ヤシク街セ教書ニ十時より日  
記ニ往リし強クテ免ク強ク十一時  
半強ク終ル

十月十八日(土)

今日、土曜日の午後一時ヨリカミヤ弘之  
孫長、淡路の海工科大学中庭に赴キテ  
之ヲ聴ク。又氏ノ聲明書ニキ事案裏ノ如ク  
孫長澤田氏ノ此ノハ殆ト天地ノ大是アリト  
ス。換シテ大要ハ、世ヲテ余ノ以テ管理ス貴  
ビ實際ノ輕スハ如クニ云フモ宜シ。又ノ如ク、  
諸君ノ書生ノ様貌外ハキリテモ礼節廉  
恥ノ貴バキハカラス、又 Nationality  
失ハサレテノ希也。又、此ノ別ノ卓見ト云ハ  
モアサカレモ亦聞キ見バ左程ヲマナクモ  
ナリキニ時区ト淡路路リ家ノ如クニハ二軒  
正死氏珍ヲシテ来リケル。淡路ハ餘リ面白カ  
ズニ時同ノ後、從リシ余ハ土曜日ト云  
キ好又氣ノトナレバ、好ク出カレヌ。又、  
村ノ村主ノ由テ其ノ家ヲ出テ是ノ地ヲ  
件ノ件係何ヘ行キ、勿論、陽島王地内  
ノ西洋料理店ニ押シ上テ飲食シテ  
此等ノ満腹トナリ、カバテ者々ヲ尋テ、  
ニ上野ノ辺ヨリ再ヒ切テ、通ニ来リ、  
hammeニ入リテ、カ、ビ、ニトカ、  
飲シ、家ノ如ク見モ、  
夜席ヨリ来リ、

イロ  
カサノ入三ノ  
ル

但し見ハ今夜酒ヲ飲マザリシ故大ニ不  
愉快ノ風ニア余ニ録ノ策セ何ク愈ヒニ行  
カハ云フ年ハ之ヲ諫メテ僅カク思ヒ止メ  
セオト共ニ再ヒ警告ニ出カフ本脚面  
リニテビールトブランデートヲ購ヒ家ニ入  
リテ三人ニテ飲シ陶然トシテ時ニ十時半  
程ニ就ク



十月十九日(日)

午前八時半起き出テ三ヶ所見モ残テ  
起き出ツル頃江原銅管と来訪ス困テ  
昨日第リル酒ヲ傾ケ往テ追越ニ  
軒ノ笑談諸瀝ヲ極ム内早クモ十二時  
ナリ即チ乗船ナラ取リセテ食事ノ残リ  
久シクコト直籠山ヘ行カレテ三人連ニ  
テ出テ(村井・巴ノリ)金山豊苗ト云フ  
愛嬌者ノ門下ニ過キ物集女ト云フ鳥名  
ニ似タ色男ノ垣ニ泥ヒ圍子坂ヨリ谷中  
ニ出テ路ニ倒リ日暮里ノ山上ニ逆シコト  
ヲ一季虎ニ懇ヒ酒トヌツト柳ヲ取リ  
セテ小窩ヲ張リテ時々ピート着シゴ一  
ト宿キテ山下ヲ走ル漢車ナク一年以テ  
余等三人存レコノ季虎ニテ柳ヲ着ニ合シタ  
リシトアリ遠懐ノ情ヲ禁セザルモ可笑シ  
年日ハ乙ノ六ノリテ路半ノ後シテナルガコ  
ト直ニ余ノ得意ナレバ余モ樂ナル心地セテ  
四時ナリ去リ又ト江原トハ月夜車ヲ飛ビ  
若竹ヘ遊歩間ナレト出テ行キタリ余ハ一旦  
帰宅シテ食事ノ残ヘ若竹ヘ行カレタルニ  
我々ノ事務急ニ起ラヌ思ハニハ

夫レヨリ車ヲ飛シ津保河ヘ行キテ要ヲ  
路ヘ又申テ飛シ着付ヘ行キ見ル 既チ  
夫レ語リ居ル 然レ声響シテ大ニ聞キ共  
シ余ハ六十点ヲ与フルニ次ニ越路ノ  
二十点者ニテ声ハ毎年ヨリヤ、方レ九  
十五点ノ價値アリ 佐ノ大丈ハ八十五点位  
ルニ云フコト也。九時半三人祀場ヲ出テ  
何ヲ集テ飲マベシトテ池ノ端ノ江ノ島柳  
院ニ上リ ナキ蛇ヲテ和算計ヲ江ノ島計  
ヲ好ナモ、是レニテ一升五合余ノ酒ヲ化ス  
リノ石ニ江原ハ其心事ヲ語リ此レニ應ジ世  
秘決ヲ著述セシトナドテ復キタリ十一時半  
カ寄リ立テ出テ久シクニテ大ニ bandich-  
treen へ 働ク 今日ニ萬融塾、下宿屋、兼  
代石等、大着被テ外ニ大胆ニモルヲ車ニツテ  
家ニマテモヤリヨリ 江原ハ余(17)ヲテ妻ル  
カ道ニ 家ニヨリ去リ余等ハ直ヤ宿ニ赴ク

十月二十日 (月)

例如リ五時帰宅休息、後夕飯ヲ  
終リ足ト共ニ散步、出カ仲陸架河ナル  
内村氏ノ寓ヲ訪フ氏ノ女房於此ニ在リ  
ナキ電ニ借リ住ヒシ辰ルコトナルガ妻  
ハ不ナレ事ナリ内村氏ハ全ク経験ナキト  
ルバ何トナク妙テナル風体ナリ併シ主婦  
只ノ二人キリニテ睡シクウ暮シコトナルバ案  
弁タツ中ニアツタロー 呵々。 遠ヲ洗 姑ナキ  
バ後 辭ニ去リテ仲保町ニ赴キ要るヲ終  
リ足ト共ニ表竹ヘ行カト思ヒレカ時已ニ遅  
クナリタリマヨ表竹ヘ行キ外アキラヲニテ  
銭ゲーヲ飲マント一決シビールノスチト  
日中酒ヲ交ヘ飲シレカバ大ニ酔ヒテ家  
リヨリナ一吋癩ニ就クコトハ多クモカ  
ワラスヨク飲ムコトハ、 鳴ル等時ガ  
惜ヒ時ガ惜ヒ、金ガホイ、金ガホイ

十月二十一日(火)

例如々午時五時帰宅ス矢島壽助来訪  
シ禮ヒテ御供昇陽来訪ス矢島兄様内  
シ御供ハ余ニ對シテ又ノ儀内ス余ハ御供ニ  
講談スルヲ大凡ニ對シテ行リニシテ又御供矢島  
共ニ仰ル余ハ先ヨリ小鉢洋酒等行ヒ八日  
大分ニ就テ方ニ相控シ帰宅後直ニ原  
籍草摺ヲ校正シ一頁半後之ヲ受  
ヘ直ニ神保町ノ松井家ニ赴ク嗚呼  
多忙ナル哉多忙ナル哉イテ早ニ此ハナク  
神保町ヲ去リテヌク(地味行ヲナシ  
本郷手野屋ト云フ牛肉店ニ押入リテ  
余ハ酒ニ合フ傾ケテ宇宙ノ真理ヲ考ヘテ  
エヘンエヘン余ハ耳ヲソバクハ聞テハコ家  
ニ四人連リ馬鹿學生来リテ馬鹿ニ馬鹿ヲ  
散ラシテ又声喧嘩極ナシ一人ノ書生一  
人ノ幼ナキ美婢ノ様ニ要撃シ直ニ之ノ後  
シヨリ抱キスツヲ動カズ何ヤリ変ナル怒ビ  
声ノ會談ハ書生一同ヲ去ル後御供  
大ニ怒リ且ツ恨シテ書生ヲ散ルニ票口ニ馬  
鹿ト云ヒテホウト嘲リテ又トナル  
マジナル嗚呼ナル余ハ之ノ間ナル中

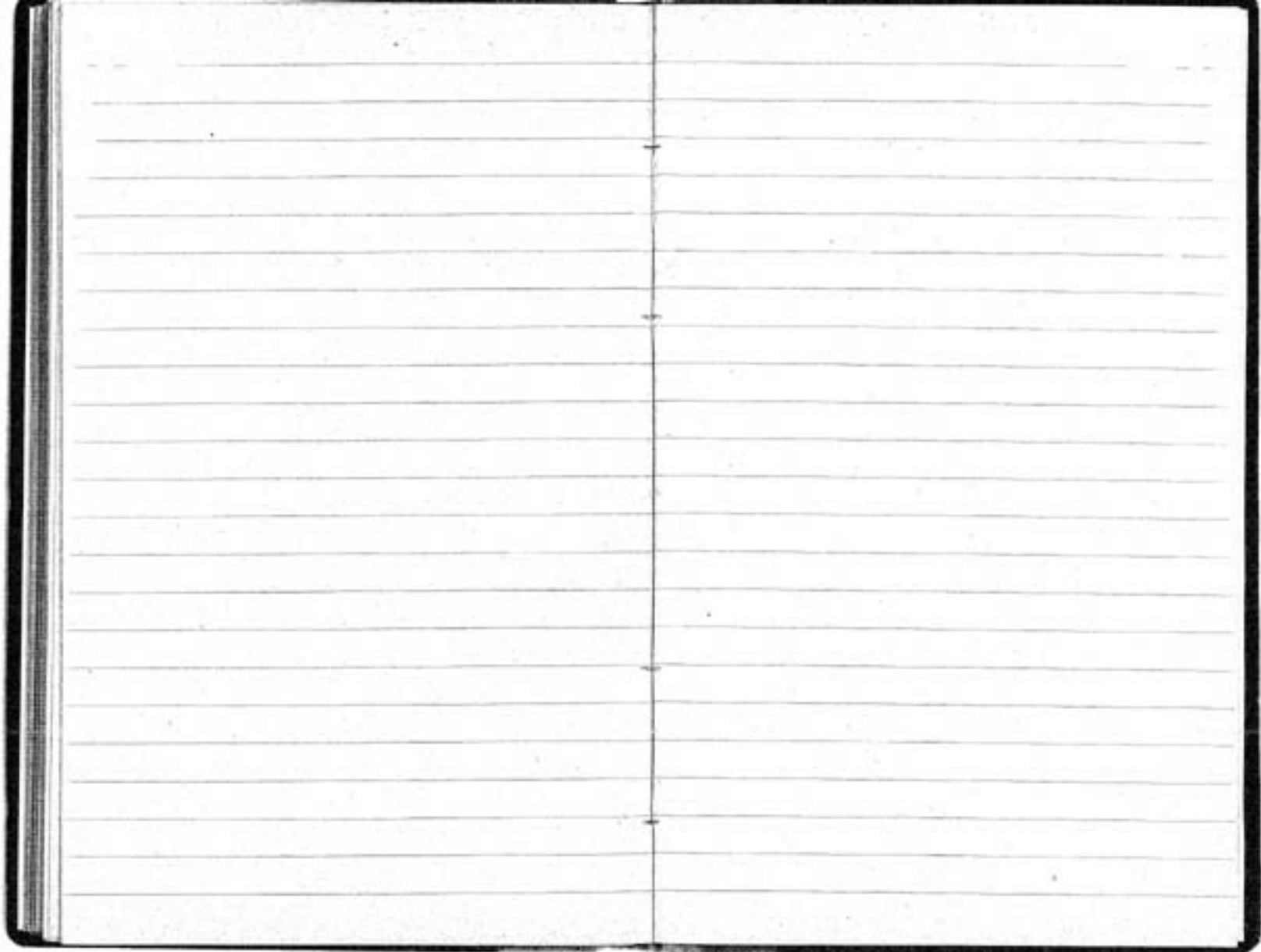


寂か怪ル所アツ。エー何ヲ怪ツカシク?  
まい云ツマイ。云ハヌガ怪レゾ。借テ醉  
装ノ浅マシカ。人石ノ跡モアラス牛肉店ノ  
下婢ニマデ賤ル、悪ル、嘲ル、諷ルハカ  
身ハコソサシモ知ラズ、却テ人ニ向ヒテ  
手野死ノ義婢ガ僕ニホレテ困却スルナト  
嘔吐ガ出ルキナル劣等ナル自惚根性ヲ  
遣フスルヲ笑ニク擲ルベク笑フベシ。余ノ  
矢ル人ニコレヲ辱物ナルトハ思ヘドモ  
又無シモ云ヒ難キ死シテシテ死念ト  
スノ人間ハ高岡ナルベシ僂義ナルベシ。  
酒ハコノ両ツノモル對シテ常ニ五書ヲ  
作用サス。酒ハ為ニ嚴剛トハハ高岡ニ  
ハスラホケリ。酒ハ為ニ卑トハ卑ハ僂義  
ハスラホケリ。怪ル怪レア——  
怪レ雪天下ノ青ニオナラ。酒ハ止メヨ  
酒ハ止メヨ。無理ト屁理屈聞ク耳ハ  
モモクゾヨ。十一時人カ車ヲ命シテ  
象ノ如ク象ニホケル。

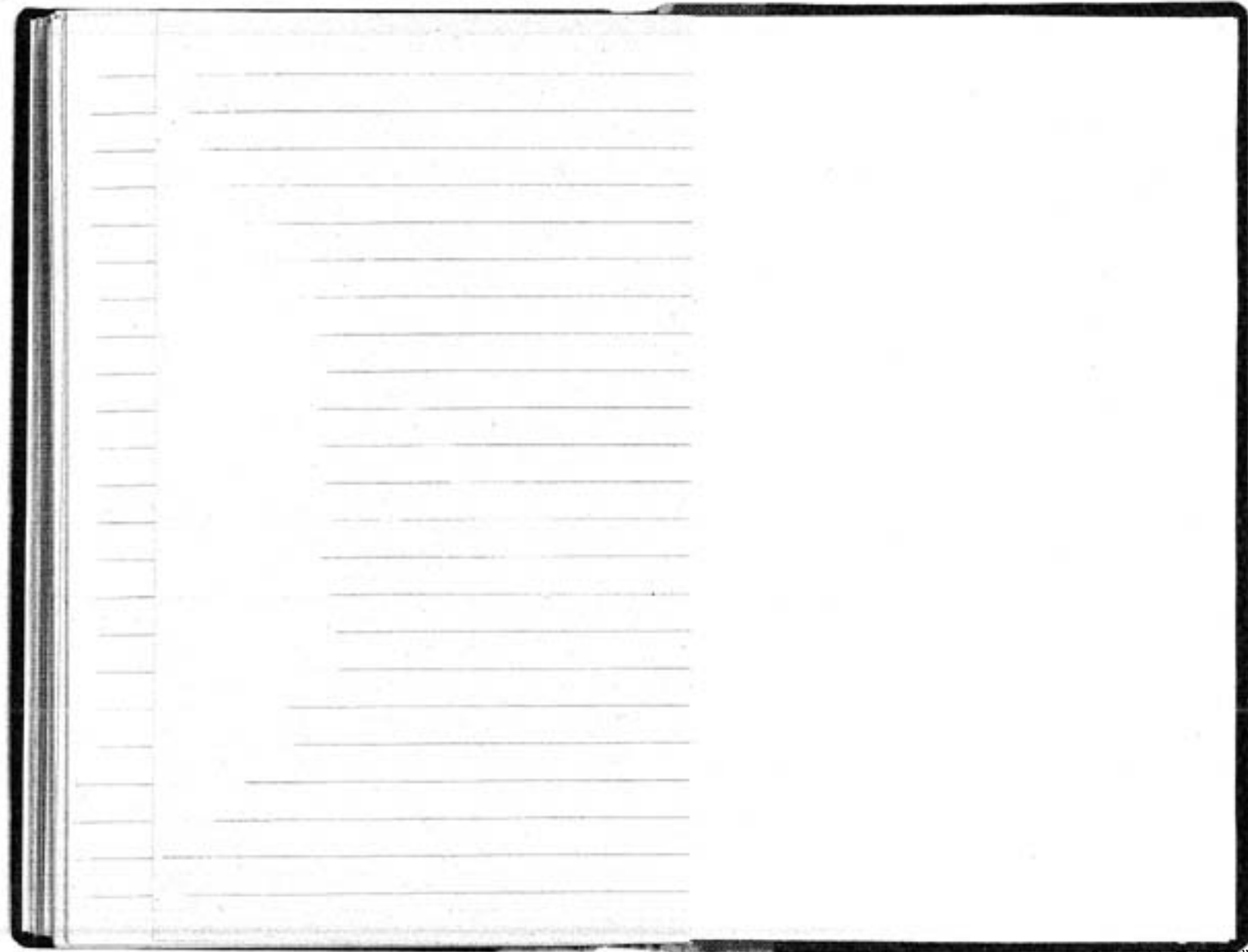
丁卯二十一日(水)

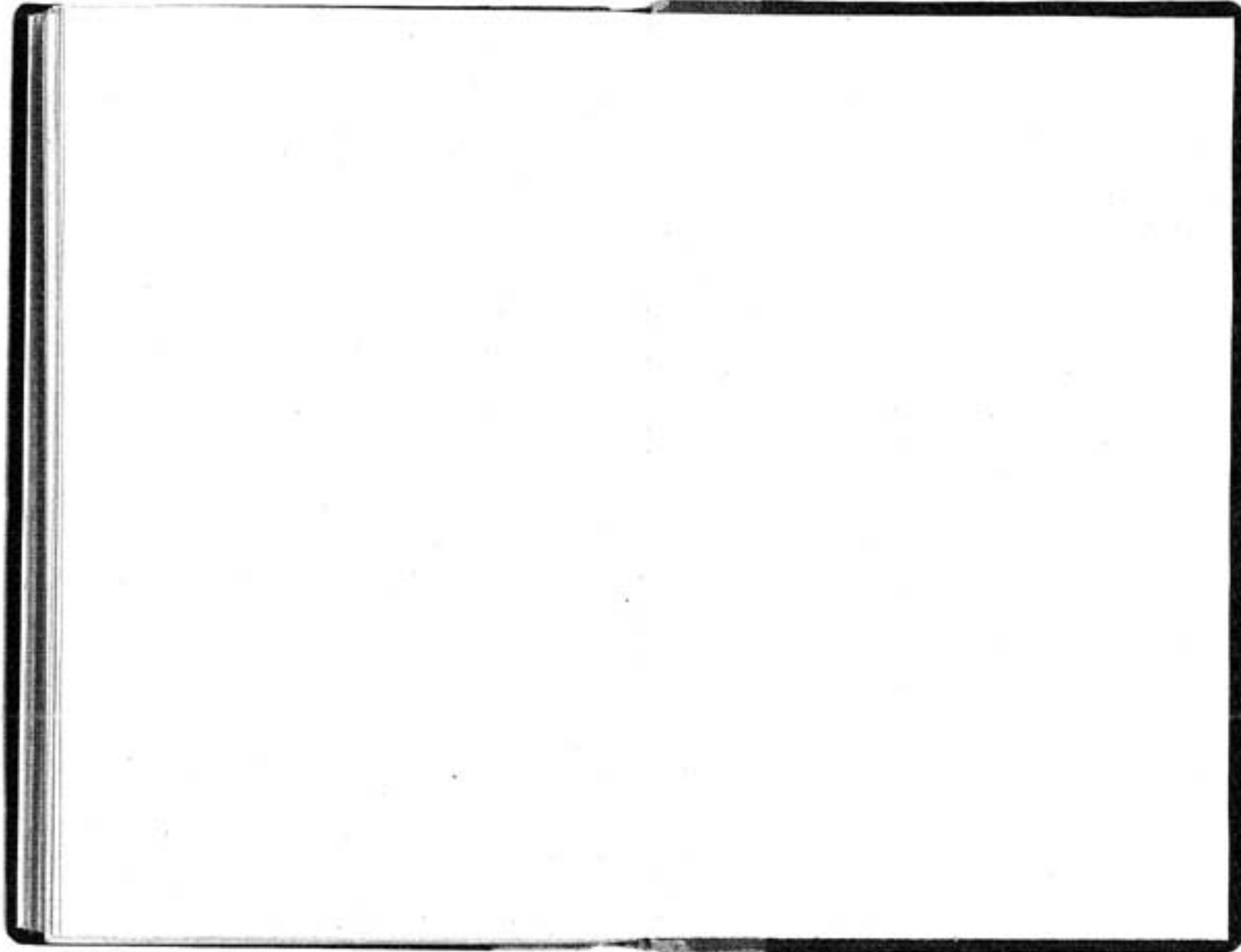
例如ク午時五分明覚ス余ハサト  
斗ヲ起テ浴ニシテカレ今日ハ大雨ニホ  
然ル心氣進マズテ只ク鬱茫乎の  
ト一ダ面白ク熟語ガ一? 日暮後  
余ハ勉強ニシテカレ五十歳至ル  
マシト云フニ有ル年一件ヲ行  
判ス余ハ之ニ就キ決行マテ行  
カレバカラスト名モアリニ大義好車代  
ツ見進呈シテワラフ決行ツギヒ  
足取得已シテ取返セウ一時事ノ後  
又ハワラフ煮トコンニナク(コレ Cognac  
ニテ日本(酒器ニテ)ト提ヘラ(集)ヨ  
ル余ハ之ヲ欠テサレテ喜ビ細煮ヲ  
コン的ヲコレ花シ大ニ愉快ニ内  
所ノ内操子ニ何カ智クウナリナ  
午後十一時寝ニ就ク。昨日大ニ酒ヲ  
攻撃セシガ今日ハトモ酒ガ頼母シ  
思ハル。エー汝忠告、汝ハ何故ニ  
斯ク一室ノ見識ナカ? 夫ハ……アルトモ  
アルトモ年モ亦一定ノ見識ナク。但シ  
今日ハ外酒ヲカライヤシ。十一時ノ子ホシ。

十月二十三日



十月二十四日 (五)





明治二十三年

自六月十九日  
至十月二十四日

第七



7

7

M. 23. 6. 19  
~ 10. 22

(23.24.日付ノミ)

ウキよのたび